



編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区玄鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : http://www.inohana.jp/



千葉大学医学部同窓会報 第180号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

年頭の挨拶

るのほな同窓会長 済陽高穂(昭45)



るのほな同窓会のみなさま、明けましておめでとうございます。平素はるのほな同窓会にご理解と多大なご協力をお寄せいただき心より感謝申し上げます。

皆さまの総意により4年前に完成した新同窓会館は、医学部における各種研究会や卒後50周年記念のクラス会など同窓生の会合、るのほな祭などの行事に合わせた同窓生と学生間の懇談を目的としたホームカミングパーティーなどに活用されております。

同窓会事業としては、懸案の同窓会関連施設計画(メモリアル事業)すなわち開学以来のこれまでの医学部歴史過程や特筆される業績などを一堂に展示する必要性に鑑み、その規模、設置場所を年来検討

しておりますが、2022年に野球場の跡地への医学部新棟建設に伴い、旧病院が全廃される予定で、医学部との共同作業になると思われますが旧病院などのビデオ記録編纂や展示模型製作などを検討中です。是非ともるのほな同窓会員に懐旧の念を思い起こさせ、また千葉大学医学部関連の人々を鼓舞するものが実現できればと考えています。

・昨年6月、卒業50年のクラス会から『母校への感謝』として同窓会へ多額のご寄付の申し出と共に、るのほな同窓会活動の基盤となる基金作りを検討すべきとの提案を受け、大変にありがたいお話しであり鋭意計画中です。

・同窓会の目的である「会員の親睦と医道の高揚」に心がけておりますが近年の同窓生が更なる誇りや矜持を再認識できるように、現存する医聖ヒポクラテス像の屋外展示や改変などを検討中です。

・千葉大学が戦後の学制改革により統合発足して2024年に75周年を迎えるにあたり、大学本部として西千葉駅前への正門移築、陸上競技場整備その他を周年事業として検討しております。そのためのSEEDS基金などへの協力もお願いしたいと考えております。

大学医学部の機能として、最新の医学・医療を追究し、難病治療など患者の希望に最大限応えることが要求されておりますが、わが医学部はこれまでも歴史的に優秀な研究者が育ち、また熱意ある臨床医を多数輩出しています。千葉という恵まれた首都圏で活動し、また昨年は新設された国際医療福祉大学に17名の新進気鋭の教授たちを送り込むことができました。千葉大学医学部共々近未来の我が国

の医学を担い、また医療界への多大な貢献をしてくれるものと感しております。昨年度のノーベル賞・医学・生理学賞が京都大学の本庶佑教授とテキサス大学・MDアンダーソンがんセンターのJ. アリソン教授に授与され、全世界からの評価を受け、大変喜ばしい出来事でした。千葉大学医学部新棟の完成により、基礎と臨床の共同研究がさらに進展して、素晴らしい成果が挙げられるよう期待するものです。千葉大学が医学・医療のリーダーとして活躍するとともに、本年が皆さまにとりご健勝とご多幸に恵まれることを願ってやみません。本年もよろしくお願い申し上げます。



祝 叙 勲

平成30年 秋の叙勲

瑞宝重光章 齋藤 康

瑞宝中綬章 (新潟大・昭43) 柏原 英彦(昭41)

瑞宝小綬章 高橋 誠(昭46)

瑞宝双光章 布川 武男(昭32)

高齡者叙勲 瑞宝双光章 森田 茂(昭30)

瑞宝重光章 齋藤 康

瑞宝中綬章 (新潟大・昭43) 柏原 英彦(昭41)

瑞宝小綬章 高橋 誠(昭46)

最終講義

のご案内

公衆衛生学

羽田 明 教授

日時 平成31年2月20日(水)午後4時半

場所 医学部附属病院ガーネットホール

演題 ヒトの健康を人類進化を考慮した

遺伝的要因、社会的要因から考える

耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学

岡本 美孝 教授

日時 平成31年2月21日(木)午後3時

場所 医学部附属病院ガーネットホール

演題 頭頸部の免疫・アレルギー

―臨床研究を振り返って―

小児外科学

吉田 英生 教授

日時 平成31年3月4日(月)午後3時

場所 医学部附属病院ガーネットホール

演題 倦まず弛まず小児外科医の道

救急集中治療医学

織田 成人 教授

日時 平成31年3月5日(火)午後3時

場所 医学部附属病院ガーネットホール

演題 症例から学ぶ救急集中治療医学

総合安全衛生管理機構

今関 文夫 機構長

日時 平成31年3月8日(金)午後4時

場所 西千葉キャンパスけやき会館

演題 肝炎の診療と研究 ―40年をふりかえって―

紙面紹介

年頭の挨拶	追悼文	1
るのほな同窓会賞	雑文雑談	2
就任挨拶	学生教育	3
叙勲感想	学内情報	5
人事異動	課外活動団体だより	5
各地るのほな会	会員から	6
クラス会	特別寄稿	8
地区るのほな会報	著書紹介	11
研修プログラム	オンライン会報	14
研修医だより	編集後記	14

ゐのはな同窓会賞

功労賞を受賞して

『和漢診療学・医療融合新領域の創成および千葉大学医学部発展基盤への貢献』

寺澤捷年（昭45）



平成30年6月9日に開催された「ゐのはな同窓会総会」において、2018年度の功労賞を受賞する荣誉に浴し表彰されました。嬉しい限りです。

思い返しますと、1964年に千葉大学医学進学課程に合格。その後から学生のサークルである「千葉大学東洋医学研究会」に参加したことが私の人生を決定づけました。当時、「東洋の知」を知った私は「東洋と西洋の知を共に活用すれば理想の医療ができる」と確信したのです。

明治維新以後、漢方医学の辿ってきた道はまさに苦難の歴史でした。「漢方は医学でも医療でも無い」と政府によって抹殺されたの

です。欧米に追いつき追い越せという近代化政策と富国強兵の国是に漢方は合わなかったと言えます。

これによって医師の資格を得るためには西洋医学を学び試験に合格することが求められました（1884年）。しかし、この試験に合格すれば漢方を診療手段とするのは許容されました。この医師の裁量権の寛大のお陰で、江戸時代以来の漢方の伝統が辛うじて命脈を保てたのです。

私が千葉大学東洋医学研究会に参加した当時、何と5人も千葉大学（千葉医科大学）の先輩が「漢方の伝統」を掲げて、大学を中心に活躍していたのです。和端正系（大正11）、藤平健（昭15）、長濱善夫（昭15）、伊藤清夫（昭13）、小倉重成（昭17）の諸先生です。これらの皆さんは江戸時代から伝えられた漢方の哲学と術をその師匠であ

る奥田謙蔵から学び「千葉古方派」という漢方のSchoolを形成していたのです。千葉大学医学部の誇るべき歴史であると私は考えます。この学派を支えたのが当時（1940年前後）、眼科学教授であった伊東彌恵治先生であり、伊東先生のお力で今日の「千葉大学附属図書館亥鼻分館・古医書コレクション」収蔵の2000冊以上の江戸期から明治期の貴重な書籍が集められました。極めて価値ある（ここにしか現存しない・数億円相当）医書も多数あり、正しく医学部の「宝」です。

この漢方医学の伝統を継承し、さらに西洋医学との協調を図り、あたらしい医療の形態を求めめるのが「和漢診療学」です。西洋医学は専門分化の一途を辿っています。これは科学の進歩の必然的な帰結で、今後も留まることを知らずに分科して行くことは避けられません。しかし、ここで一歩止まって考えなくてはならないことは、様々な不具合を持つ「一箇の患者」はあの診療科、この専門医を歴訪して果たして良い結果が得られるかという問題です。

私の医学生時代に本学を誇りに思っていたことは「ともかく治せる大病院」ということでした。中山恒明先生（昭9）は今で言う「opinion」の人であり、私達の誇りでした。和漢診療学と和漢診療科も、専門分科してゆく現在の医療の不備を補う重要な領域です。私は富山医科薬科大学でこの道を26年間追求してきましたが、磯野可一元学長（昭33）のお陰で母校に戻りました。磯野学長の崇高な理念に感謝する次第です。

今日、医療界は標準治療やマニュアルが全盛です。そしてそれに準拠している「法的」には安全です。しかし、それが医療の本道とは私には思えません。それならAIで代行して貰っても良いことになりません。医療とは人間存在の理解と共感に尽きると思っています。目の前に現れる患者さんのこれまでの人生、その発する言葉に敏感であつてこそ、「治せる大病院」としての千葉大学医学部と附属病院の存続の意味があると思うのです。

受賞にあたり済陽高徳会長をはじめ、諸先生方に感謝し、思いのままを記させていただきます。

2018年～2019年度千葉大学ゐのはな同窓会評議員

ゐのはな同窓会では評議員を「クラス代表幹事」という位置づけで、同期の先生方の情報発進元とさせていたきたいと考えております。今後ゐのはな同窓会活性化に向けて評議員の方々に活躍いただきたいとよくお願い申し上げます。

なお、評議員不在のクラスには事務局からお問合せしておりますが、お心当たりのクラスの方からのご連絡をお待ちしております。

90名

Table with 3 columns: 年卒, 氏名, 敬称略. Lists names of graduates from 1911 to 2030.

Table with 3 columns: 年卒, 氏名, 敬称略. Lists names of graduates from 1951 to 2010.

Table with 3 columns: 年卒, 氏名, 敬称略. Lists names of graduates from 1921 to 2050.

就任挨拶

千葉大学大学院医学研究院

診断病理学 教授

池田 純一郎 (大分医大・平14)



この度、平成30年10月1日付で千葉大学大学院医学研究院診断病理学教授を拝命致しました。伝統ある千葉大学の一員として、研究、教育、診療に携わる機会を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

私は、平成14年に大分医科大学(現大分大学)医学部を卒業後、大阪大学大学院医学系研究科病態病理学教室・附属病院病理部(青笹克之教授主宰)に所属し、研修医として病理診断業務の研究を積み重ね、同時に教室の主なテーマであった悪性リンパ腫の研究と診断に携わりその教育を受けて参りました。平成15年に東大阪市立総合病院臨床病理科にて病理診断業務の研究を積んだのち、平成16年に

は再び大阪大学に戻り、医員、助教、准教授として研究、教育、病理診断、病理解剖業務に従事してきました(平成24年より森井英一教授主宰)。

平成16年からは、抗がん剤や放射線療法に耐性をもち治療抵抗性を示すことが知られている腫瘍幹細胞(がん幹細胞)に関する研究を開始しました。ヒト腫瘍は単一の細胞に由来しますが、形態的にも機能的にも多様性を示し、機能的多様性の一例として腫瘍幹細胞が知られています。その組織学的同定が病理診断時における腫瘍の予後予測、多様性の機構解明につながることを考えて、様々な検討を行ってきました。近年では、腫瘍幹細胞を制御する重要な因子にも着目し組織学的に同定する研究が続けております。また、悪性リンパ腫に関して、大阪大学を中心に立ち上げられた大阪リンパ腫研究会の病理中

央診断グループに参加し、リンパ腫の適切な病理診断とその病理疫学的なデータの蓄積に努め、これらを用いた臨床病理学的検討や症例報告を行って参りました。その他に、低侵襲な止血や殺菌、腫瘍制御に対する医療応用への検討が進められている低温大気圧プラズマ装置を用いた腫瘍幹細胞への効果の検討を行い、がん治療への応用のための学術基盤の確立も試みています。



東北大学大学院医学系研究科

保健学専攻 画像診断学分野 教授

植田 琢也 (平6)

ンを十分にとり、患者の立場に立った安全で質の高い医療の提供に貢献できるような努力して参りたいと存じます。

これまでの研究活動の特色としては、腫瘍発生や予後の要因となりうる因子を分子生物学的および病理組織学的観点から検討することであり、組織全体を観察して病態を解明する病理医としての本分を發揮できるものと考えており、今後とも継続していきたいと思っております。

また、病院における病理診断業務にも従事して参りました。病理診断は、治療方針の決定や手術の妥当性の評価など、医療の根幹に関わる医行為であり、的確な病理診断は癌をはじめとした様々な疾患の治療の基本となり、その重要性はきわめて大きいものと考えております。診療に携わる多くの方々とコミュニケーション

るのはな同窓会の先生方には、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2000年頃より千葉大学数理学科の水藤寛助手(現在、東北大学材料科学高等研究所教授)と血流の研究を始めたのもこの頃です。当時は血流のシミュレーションなどを行うマニアックな研究者として変人扱いされましたが、今や冠動脈の流体力学やデバイスデザインなど、コンピューター血流解析の技術が医療で広く用いられる時代になったのは感慨深いものがあります。

中心とした臨床・研究を行っており、そんな私が腹部領域から心臓血管領域へと転身し、今では心臓血管系画像診断を専門とするようになったのは、思いも寄らないことがきっかけでした。南学教授から「スタンフォード大学で働けるチャンスがある。心血管系画像診断領域だが、トライしてみないか？」というご提案をいただいたのです。私は「スタンフォード留学なんて、なんとかつこよい響き！」という邪な気持ちでご提案をお受けし、客員講師として渡米させて

るのはな同窓会賞受賞候補者募集要項

第二四回(二〇一九年度)るのはな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集いたします。

一、受賞対象者

① 社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をされた個人またはグループ。

二、表彰

① 社会貢献賞 (三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。

三、応募方法

② 功 勞 賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学るのはな同窓会に多大の貢献をした者。

四、受賞者の決定

③ 功 勞 賞 (一件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内、るのはな同窓会事務局

申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

いただきました。これが、人生の大きな転機となりました。

スタンフォード大学では、豊富な大動脈疾患の症例を経験しました。当時のアメリカは、まだ日本では臨床適応がされていなかった大動脈ステントグラフト治療がすでに臨床導入され、10年を経ているという環境。これらの豊富な症例を経験し、画像診断の臨床研究ができたことは私の大きな財産となりました。また、世界中から一流の医師が集まるスタンフォード大学は、各国間の治療や診断に対する考え方の差、世界の医療の多様性(ダイバシティ)を肌で感じる非常に貴重な場でもありました。こういった多様性にふれた経験は、現在アジア各国における放射線医学の国際協力や発展途上国への国際支援の仕事に役立っています。

帰国後は、千葉大学に講師として再赴任しました。帰国直後に、医局長の任をお受けしましたが、至らぬ故に母校に充分な恩返しを出来なかつたことは今も悔やまれます。その後、聖路加国際病院放射線科へと赴任し、心臓血管系画像診断部門のチーフとして専門分野のさらなる研鑽に励みま

した。その後、医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンターを経て、2018年1月より高瀬圭教授のもと、東北大学病院放射線診断科へ准教授として着任させていただきました。2010年より、科学技術振興機構(JST)から戦略的想像研究推進事業(CREST)を受諾し、水藤寛先生と共に数理分野と医療分野の橋渡しをする協働研究を積極的に進めてきました。数理分野は、純粋数学・統計学・流体シミュレーション・幾何学など非常に多岐の分野にわたり、様々な優れた手法をもつ数理学者の方がいらつしやいます。このような分野から医療の各分野に応用可能な手法を発掘し、医学と結びつけていくことで、医学の発展に貢献できればと考えています。

このたび保健学専攻画像診断学分野の教授を拝命し、身の引き締まる思いです。東北大学は指定国立大学として放射線技術部門を擁する数少ない保健学専攻であり、全国の放射線技術学科を牽引し、その教員となる人材を育成していくという任務を担っています。画像診断分野の発展に寄与できるような臨床と研究の両方のマインドをもった人材が、医療分野で活躍できる場を作る手助けができればと考えております。またチーム医療の一員としての人間性と、世界に目を向けたグローバルな視点をもった人材の育成にあたることで、広く社会にも貢献したいと思っています。

今後は、東北大学病院放射線診断科と密な連携を組み、放射線技師と放射線科医の橋渡しをすることでチーム医療に貢献すると共に、放射線技師・放射線科医の育英に取り組み所存です。そして研究分野では、これまで培ってきた医療分野・数理分野の連携をさらに推進し、画像工学分野での協働研究をさらに発展させる一助になればと考えております。

千葉大学において研鑽した日々を思い起こし、母校への郷愁が呼び覚まされます。これまで歩いてきた道をしっかりと踏みしめながら、未来を見据えて、医療の発展に寄与していくことが私の使命と考えております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

野のさらなる研鑽に励みました。その後、医療法人社団誠馨会千葉メディカルセンターを経て、2018年1月より高瀬圭教授のもと、東北大学病院放射線診断科へ准教授として着任させていただきました。2010年より、科学技術振興機構(JST)から戦略的想像研究推進事業(CREST)を受諾し、水藤寛先生と共に数理分野と医療分野の橋渡しをする協働研究を積極的に進めてきました。数理分野は、純粋数学・統計学・流体シミュレーション・幾何学など非常に多岐の分野にわたり、様々な優れた手法をもつ数理学者の方がいらつしやいます。このような分野から医療の各分野に応用可能な手法を発掘し、医学と結びつけていくことで、医学の発展に貢献できればと考えています。

神奈川歯科大学大学院

全身管理医歯学講座 教授

古出智子(平13)



平成30年4月より神奈川歯科大学大学院全身管理医歯学講座の教授を拝命いたしました。平成29年11月に横須賀市にある神奈川歯科大学附属病院が新病院として開院し、4月より消化器内科を開設、内視鏡検査を中心に診療を始めております。

私は高校まで横浜で過ごし、平成13年3月に千葉大学医学部を卒業いたしました。その後は、横浜南共済病院にて臨床研修を行い、横浜市立大学の消化器内科に入局しました。平成19年4月から7年間横浜市立大学附属病院に勤務し、平成22年に学位を取得させていただきました。平成23年から3年間は同病院にて助教を拝命しておりました。横浜市立大学は臨床研修が正式に開始となる以前から自由ローテート研修があり、全国の医学部から研修医が集まり、さらに他大学からの入局者も多い大学です。千葉大学出身の私も横浜市大消化器内科に入局後、上司、同僚、後輩に恵まれた環境で働くことができたと感じております。千葉大学とは卒業後直接の関連を持つ機会はありませんでしたが、神奈川県西部で診療をした際は千葉大学医学部出身の先生方のお名前を拝見したり、会報等で同期の先生方のお名前を拝見したりする機会もあり、懐かしく感じておりました。また昨年、横浜市立大学総合診療医学の太田光泰教授の就任祝賀会に出席した際には千葉大学総合診療科の生坂政臣教授のお話を聞く機会も得ました。

この度、横浜市立大学医学部肝胆腸消化器病学の中島淳教授に声をかけていただき、歯科大学に勤めることになりました。このような事は予想もしておらず様々なご縁に感謝しております。神奈川歯科大学は、歯学部・歯科衛生学科・看護学科の教育を行っており、横須賀・三浦地区唯一

の歯科専門病院として長い歴史があり、地域の方々の信頼を得ている病院です。高齢化社会の到来により歯科診療においても基礎疾患を持った患者さんが増え、近年は歯周病が虚血性心疾患、糖尿病、非アルコール性脂肪肝(NAFLD)の発症にも関与していると発表されております。

平成29年7月より横浜市立大学前医学部長でいらつした藤内祝先生が神奈川歯科大学の副学長として着任され、横浜市立大学医局出身の糖尿病内科、画像診断科の先生方も既に勤務されており心強く感じております。このような役割をいただき、光栄と存じますとともに重責も感じております。私自身微力ですが精一杯、尽力して参りたいと存じます。何卒、皆さまのご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

千葉市医師会会長を拝命して

齋藤博明(昭55)



平成28年12月に横浜市立大学と神奈川歯科大学は、「教育・研究・臨床」の交流および連携を推進し、地域社会の発展に寄与するという目的のもと大学間連携

平成30年6月10日の第4回千葉市医師会代議員会で千葉市医師会会長を拝命いたしました。私は昭和55年に千葉大学医学部を卒業し、当時山口豊教授が主宰されていた肺外科に入局し、呼吸器外科学を研鑽させて頂きました。その後免疫学の谷口克教授にご指導いただき、腫瘍免疫学の基

礎研究に従事し学位を取得致しました。平成6年に義父の後を継ぎ外科医院を開業し現在に至っております。千葉市医師会は、前身の千葉県医師会が1907年に発足し1921年(大正10年)市政が敷かれるとともに千葉市医師会となり、以来100年の歴史を刻もうとしております。現在は14の地区医師会により構成され、平成30年9月時点での会員数は1205名の大所帯です。このうち千葉大学出身の先生方の内訳は449名で会員の中では他

協定を結びました。平成29年7月より横浜市立大学前医学部長でいらつした藤内祝先生が神奈川歯科大学の副学長として着任され、横浜市立大学医局出身の糖尿病内科、画像診断科の先生方も既に勤務されており心強く感じております。このような役割をいただき、光栄と存じますとともに重責も感じております。私自身微力ですが精一杯、尽力して参りたいと存じます。何卒、皆さまのご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

大学に比べ圧倒的多数を占め、同窓会の先生方が千葉市医師会を支える大きな力となっております。

執行部は会長以下副会長3名、総務・理事14名、監事2名で構成されています。この中で同窓の先生は、理事で医療担当の中村真人先生(昭54)、成人保健担当の中村貢先生(昭59)、学術担当の北和彦先生(昭59)、産業保健担当の師尾郁先生(昭60)、経理担当の小出明範先生(平11・院)公衆衛生担当の阿部博紀先生(徳島大・昭59)がそれぞれ分野で頑張っておられます。また監事は佐久川輝章先生(昭44)、中野義澄先生(昭45)にお願いしております。

我々千葉市医師会の果たすべき重要な役割は、先ずは千葉市の地域医療の発展に貢献することです。千葉市医師会の事業は救急医療・在宅医療・母子保健事業・検診事業・予防接種事業など多岐に亘りますが、事業の円滑な運営には千葉市行政組織との密な連携が不可欠であり、日頃より情報共有に努め協力して各種事業を積極的に進めています。続いて医療の学術専門団体として如何に医療水準を市民に担保し啓発を深

めるかにあります。会員向けの学術講演会や市民公開講座を定期的に開催し、また、学術研究のための医療倫理特別委員会も設立しております。情報の伝達には、広報誌「千葉市医師会だより」、市民向け広報誌「すこやかCity」を発刊し啓発に努めています。また会員の福利厚生の上も重要であり、特に会員の診療における問題発生時の有効な解決手段となる医療安全の充実に特に力を入れています。近々の課題は大規模災害発生時の対応です。

受章の挨拶

瑞宝双光章

瑞宝双光章を受章いたしました



森田 茂 (昭30)

本年4月1日付で、瑞宝双光章を拝受いたしました。私は昭和26年に横浜市立大学の教養学部を終了した後、千葉大学医学部に入学いたしました。卒業後昭和31年5月から昭和33年まで千葉大学産婦人科教室に在

災害発生時、千葉市医師会は携帯電話での会員連絡網を構築しており、災害直後診療可能な医療機関は市の災害ホームページにも公表され、市民がこれを利用することで基幹病院への一極集中を防ぎ災害時の医療を支える大きな力になると考えます。このように千葉市医師会はるの同窓会諸兄のご協力をいただきながら千葉市の地域医療の向上のため一丸となって頑張っております。今後とも皆様のご指導・鞭撻宜しくお願い致します。

局いたしました。昭和33年より群馬大学大学院医学研究科に学び博士号を取得致しました。同級生には群馬県桐生市に住んで、文筆活動をしている山本輝通君がおります。私は思うことも言えない臆病者ですし、背も小さく160cm位しかありません。そのため、思うところあって寸止め空手を千葉大学医学部を卒業後に修行し、空手道二段となり、十年間懸命に練習しまし

た。極真空手ではありませんが、正義なき力は無能なりといえます。力なき正義も無能なりという極真空手の創始者の大山倍達氏の信念を信じております。医師は武力に弱いけれど、男性ならまさかの場合の力を家族のために持つべきだと思っております。

田邊 政裕 (昭49)



日本医学教育学会は、医学教育に関する研究の充実・発展ならびにその成果の普及を目的として、1969年(昭和44年)に創設されました。その設立に中心に関わった先生が、慶応大学医学部教授として細菌学、免疫学で多くの業績を残し、第8代医学部長を務められた牛場大蔵氏(初代会長)です。この功績により医学賞としてその名前を冠する牛場賞が1996年(平成8年)に初めて設けられました。「医学教育に関する指導的論文・著書または医学教育に関する活動・業績がわが国の医学

教育の改善に多大の貢献をした者」に授与されること。同窓の紹介されています。牛場研一先生(昭34)も平成20年度に受賞されています。学生時代に直接ご指導をいただき、感動したこと。私に本学卒業後、旧第二外科に入局、国保成東病院で研修後、主に大学附属病院で高橋英世教授、大沼直躬教授のご指導のもと小児外科を専攻してきました。25年間、小児外科の診療、研究、教育に従事してきましたが、1999年(平成11年)に50歳で人生を変え、附属病院の卒後・生涯医学臨床研修部に異動しました。専門が小児外科から医学教育へ変わったのですから180度以上の転換でした。その後、15年間、医学部、

きたと改めて実感します。皆さん、ありがとうございます。最後に大学のクラスメイトであり、その後も人生を共に歩んできた妻(旧姓川上恵美子)に深く感謝します。

人事異動

教授

池田純一郎 (大分医大・平14)

講師 須藤 千尋 (山口大医・平18)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

須藤 千尋 (同助教より)

この15年を振り返ると、UICとの交流にご尽力いただいた田川まさみ先生(鹿児島大学教授)をはじめ、多くの学内外の学生、教職員の方のご指導・ご協力があったからこそ達成で

大野 博司先生 (昭55) 野口英世記念医学賞 受賞

各地みのはな会 だより

地区みのはな会 新会長 静岡みのはな会

宮本 恒彦 (昭54)

信州みのはな会
小林 敏生 (昭53)

沖繩みのはな会
与儀 裕 (昭45)

信州みのはな会

この夏、ここ信州でもこれまで経験したことのない炎暑の中、平成30年7月22日に第6回信州みのはな会が、長野駅前ホテルメトロポリタン長野「戸隠」で開催されました。当日出席者14名、長野市近辺を中心に松本、軽井沢からもご参加いただきましたが(信州は広いのです)、先細りの傾向を否めないまま平成の時代を終えようとしております。出席者のうち、平成卒の先生は平6年卒のおふたりだけ、それでも既に卒後24年経過したベテラン先生、他の出席者は私の昭59卒を末席として昭和卒のレジエントの先生方という現状です。

宮坂斉会長(昭42)の厳かな開会の詞で催され

ました。祝辞・同窓会報告として、みのはな同窓会副会長の吉川広和先生(昭40)の千葉大医学部の現在と未来への構想のご講演を承りました。附属病院の拡充と、野球場の地に造設される新教育研究棟、現在の医学部本館(旧病院)を今後どうやって生かして行くのか、壊さざる負えないのか、等々の悩ましくもあり、確実に充実していく母校の姿を開陳して頂きました。

同窓会の現状と今後についてもお話され、100年以上の歴史を持つという信州みのはな会の出席者一同も、「信州みのはな会」の現状を鑑みて深く感ずるところがあったようです。

そして本日の記念講演として、千葉大学大学院医学研究科整形外科学教授の大鳥精司先生(平6)が「腰痛疾患の診断と治療」の表題で講演されました。我々門外漢にも分かりやすく、慢性疾患たる腰痛がいかにその人の心の在り方と結びついているか(実のところ、今重宝している薬剤の多くは効果が実証的には疑問視されているんですよ)、歳を重ねることの骨、筋肉への影響と日常生活の中でそ

の「老化」に抗していくことの大切さ(先生は1年365日、6kmのランニングを欠かさないとか)等々、説得力あるお話で、一同、実際の臨床場面、個々の健康維持の面からも大いに納得した次第です。

吉川広和みのはな同窓会副会長の乾杯のご発声後、懇親会に入りました。これまでいささか緊張気味の平成卒の先生方も昭和卒のオジさん、オバさん先生と打ち解けて、和気あいあいと今・現在のこと、亥鼻の思い出など同窓でしか通じない話に興じました。遠路はるばる来訪された大鳥教授の行く先々で人の輪がで

き講演の続きの質問など、……和んだ時の流れのうちに次回3年後の再会を確約して散会となりました。

写真右から
前列・柳沢貫一(昭40)、小林敏生(昭53)、吉川広和みのはな同窓会副会長(昭40)、大鳥精司千葉大学教授(平6)、宮坂斉(昭42)、岡野照美(昭39)

後列・清水俊行(昭56)、松林巖(昭54)、原田順和(昭53)、繁田美香(昭56)、唐木千穂(平6)、栗田純夫(昭59)、小林正幸(北大医・平6)、秋谷徹(昭50)
(栗田純夫)



静岡みのはな会

静岡みのはな会は約150名の会員を抱えているが、近年会員の高齢化が進む一方で新規入会がほとんどなく、会員数が減少している。その影響で毎年開催している総会の出席者も少なくなっているのが実情である。近年その総会の記事が会報に掲載されていなかったため、活動実績を示すために今後はこちらと投稿することにしたい。

今年の総会では、忍頂寺紀彰会長(昭42)が勇退を表明され、宮本恒彦(昭54)が後任に指名された。新規に3名の理事が加わり、徐々に世代交代が図られることになる。支部の活性化はどこでも課題になっていると思われるが、同窓のつながりを大切にする意識を持つてもらうことが第一だと考える。静岡県は新幹線の駅が6つもある広い県域があり、全体で集まる

ことが難しい面がある。今年後各地域での集まりなど充実することもある。今年も同窓会は例年と同じホテルであるが、参加者が少なめということもあり、主に結婚式で使われる非常にきれいで眺めのよい部屋が用意された。夏なので富士山は見えないが遠くに駿河湾を望む景色を楽しみながら同窓ならではの懇談の場となった。

写真右から
前列・天神弘尊(昭45)、宮本恒彦(昭54)、済陽高穂みのはな同窓会長(昭45)、忍頂寺紀彰(昭42)、菅ヶ谷純弘(昭45)、山本俊樹(昭51)、植田伸夫(昭34)



後列・尾崎梓(昭40)、名古良輔(昭54)、中田恒(昭55)、鈴木昭一(昭43)、笠松紀雄(昭56)、土川秀紀(昭44)、尾崎正時(昭58)、高橋敏信(昭52)、難波宏樹(昭54)、中山貴裕(平3)
(宮本恒彦)

安房みのはな会

平成30年10月26日(金)、平成30年度安房みのはな会総会・講演会が、千葉大学大学院医学研究院消化器内科学教授加藤直也先生(昭61)をお招きし、「夕日海岸昇鶴」(たてやま夕日海岸ホテル)にて開催されました。総会では会長の青木謹先生(昭36)よりご挨拶を頂き、渡辺啓治(昭61)より会計報告、原久彌先生(昭34)より監査報告が行われ、初参加の永田松夫先生(昭53)の自己紹介も

いただきました。その後、同級生の私が座長を務め、「消化器疾患 最新の話題と今後の展望」と題する加藤教授のご講演となりました。加藤教授のご講演は、話す速度が程よく語り口が快く、難しい内容も噛み砕いて分かりやすく時にユーモアも交え、いつの間にか約一時間が経過してしましました。教室の歴史と現状から始まり、肝臓の働きと血液データの意味、肝硬変について・サルコペニアとの関係、アンメットメディカルニーズについて、C型肝炎・B型肝炎について、そ

して大病院でのテレビ番組撮影の話し等、私にもっと基礎知識があればより一層興味深かったに違いありません。終了後別室で加藤教授を囲んで記念撮影を行いました。「波奈総本店」に移り、本位田泰介先生(昭28)の乾杯のご発声で懇親会となりました。懐かしい話も出、奇遇な話もあり、酒も進み、ここでも加藤教授の話はおもしろく、本当に楽しいひと時を過ごす事ができました。残念ながら閉店の時間になり、原久彌先生の締めでお開きとなりました。加藤教授のますますのご活躍を期待しております。



(写真には写っていませんが伊賀寧(聖マリ医大・平2)も参加しました)
写真右から
前列・関谷信平(昭38)、原久彌(昭34)、本位田泰介(昭28)、加藤直也教授(昭61)、青木謹(昭36)、永田松夫(昭53)
後列・相正人(島根医大・平9)、天野晋(平3)、辻博勝(平2)、渡辺啓治(昭61)、武内重樹(北里大・昭53)、林宗寛(昭60)、黒野隆(東海大・昭59)、原太郎(聖マリ医大・平4)
(渡辺啓治)

千葉大学亥鼻キャンパス工事予定

凡例	内容
	工事予定計画建物等
	他立ち入り禁止エリア



中央診療棟新営工事(工期H30.3~H32.9(予定))

医学系総合研究棟整備等事業(工期H31.1~H33.2(予定))



医学部は、平成33年度(2021年度)より新営の「医学系総合研究棟」へ移ります。

クラス会

昭和24年卒クラス会 (昭24)

私は、十数年ほど前にのほな同窓会長を務めさせて頂いた昭和24年卒の長澤仁一です。今年も10月14日に例年通り、銀座アスター御茶ノ水賓館でクラス会を行いました。140人のクラスで、通知を出せたのはたったの20名、5名は返事なし、11名の欠席のうち3名は入院中、3名は歩行困難で、他の5名の内1名はすっかりしているようです。結局、私を入れて5名のクラス会になっていまし



後列：中島令一、福永和雄
前列：長澤仁一、中村卓郎、北条弘

さんろく会 (昭36)

平成30年度のさんろく会が10月14日(日)午後1時から上野精養軒本店にて開かれました。東京在住の世話役5名、野尻雅美、三宅伊豫子、副島訓子、野本夫、山崎修道が担当しました。出席者は32名(会員25名と夫人同伴7名)で、着席方式のランチで4つの円卓を囲みました。先ず、野尻さんによる開会の辞の後、司会の三宅さ

た。来年はどうなることや、寂しい限りです。
(長澤仁一)

んが小倉敬一さんと塚原雄さんの亡くなったことを報告し、黙祷を捧げました。平成29年12月に亡くなった塚原さんについて「さんろく会」のマネージャーを務

める青木謹さんと田部井徹さんが詳しく語り、今年3月に亡くなった小倉さんについては野尻さんと黒田健昭さんが語り、皆で偲びました。



次年度の開催の担当者を決めるには、少し手間取りましたが、前嶋清さんと谷口滋さんの二人が中心となり千葉グループが担当ということに決まりました。会計報告は、いつも通り長谷川修司さんが行いました。そして、会食が始まり、しばらくして近況報告のスピーチが例年通り一回りして、それから、今回のハイライト、長谷川幸子さんの前からの要請で、松本生さんの見事な手品とアコーディオンの独奏があり、一同の喝さいを浴びました。最後にいつもの青木さんの指揮のもと、にぎやかに集合写真を撮り、来年の再会を期して散会しました。写真右から

前列：松本一暁、藤塚夫人、長谷川幸子、副島訓子、野尻雅美、三宅伊豫子、吉井逸郎、山崎修道、田部井徹、齋藤利隆、黒田健昭
中列：藤塚立夫、谷合明、松本生、加藤昌義、栗原正明、岡田信道、野本一夫、前嶋清、前嶋夫人、野尻夫人、山崎夫人、青木夫人
後列：青木謹、谷合夫人、岡田夫人、鈴木光、小野澤君夫、谷口滋、長谷川修司、松山輝男、福山悦男
(山崎修道)

るのほな37クラス会 (昭37)

梅雨明けの異常気象の中、平成30年7月7日午後5時から帝国ホテル東京17階「アクア」のプライベートルダイニングで、27名の参加を得て開催した。「七夕」には織姫と牽牛の古代中国由来と仏教由来の棚幡の2源流があるという。死者の霊にも会うことが出来るというので、物故会員が23名(卒業75名)になった今年はこの日を選んだ。常任幹事岩倉弘毅君の司会で開会。前回の会計報告、会員の動静、返信状況を前置きし、今年亡くなった故松江寛人君と故宮里義弘君を含む23名の物故会員へ黙祷を捧げ、進行隊ガン術後4年目で再発の兆候なく極めて壮健なガンサバイバー伊東治武君の乾杯発声で開宴。顔色良好、体重も増え、飲食を楽しんでいる姿は頼もしく、千葉大肝胆脾外科の実力の確証である。サロンソファ(安楽椅子)で寛ぎ乍ら、物故会員との想い出話と各自の「ライフレビュー」をしてもらった。吉川正宏君のお孫さんの防衛医大生活、矢野靖子姉のご主人と大型老犬の在宅ケアの、明日は我が身の御苦

労話、日浦利明君(二外滝澤病理)はスキルスの分子生物学的病因論を熱く語り相変わらずの学究徒である。油井信春君は故嶋田晃一郎君の放射線治療主治医として壮絶な甲状腺ガン臨床経過・闘病生活について故人を偲び語った。郡山でまだ研修医の指導している十林賢児君は奇しくも3月11日に亡くなった故松江君が東日本大震災・原発事故が東日本大震災・原発事故が東日本大震災・原発事故が東日本大震災・原発事故

被爆者検診へ毎週末ボランティアとして福島へ献身的に活動してくれた事を感謝し故人を称えた。前聖路加の土井修君はサリン事件当日通勤乗車車両選択で被害を免れた運命的ニアミスにあつたこと、放射線診断医として画像診断の進化は著しく、近い将来はAI診断時代と語った。青森から遠来の富士和夫君は自身の脳梗塞でのt-TPA体験談、大野孝則君は酒豪故宮里君との想い出話、小林聰介君は日本女子バドミントン界のドーピング委員?として東京オリンピックでの躍進勝利を確信していると。石山淳一君は精神科医として今なお東京都福祉局から依頼を受け、児童相談所、留置場などへ相談医として社会的弱者(被虐待児・者など)へ暇なく自己犠牲的に



献身されているが、現場家族の親子祖父母・孫・母子関係及び諸々の人間関係に於ける無関心（ネグレクト）・人心の荒廃を、不顕在を含め現下の日本社会を慨嘆していた。傘寿を過ぎ、宍倉正胤君、山本駿一君、伯野中彦君、日浦君たちフルタイムで頑張っている同輩の話を聞くと「人生100年時代」を上手に生きるパワーを貰う。ゐのはな37クラス会は猪鼻山での各々の体験記憶を甦らせる「ライフレビュー」は老いゆく脳を刺激しドーパミンが出て若返り、医の初心に帰る絶好の機会かな。参加者が20名を切るまでクラス会を続けるとの総意を受けて、サロンが好評だったので、元号が変わる来年6月22日（土）と29日（土）を仮予約した。会員諸兄姉は手帳に明記してください。小野幸雄君、小林君は開会時遅参のため集合写真になし。

写真右から
前列・立位：伊東治武、伯野中彦、本多満
座位：中村嘉孝、石山淳一、大野孝則、杉岡昌明、吉川正宏、瀬川襄
中列：高梨健治、井坂誠二、大原啓介、油井信春、田島誠、福士和夫、山根友二、矢野靖子、油井真知子、岩倉弘毅
後列：土井修、十林賢児、山本駿一、宍倉正胤、日浦利明、入枝幸三郎
(杉岡昌明)



獅子の会 (昭44)

昭和44年卒のクラス会（通称獅子の会）は同期の方が活躍されている各地域で毎年開催されてまいりま



した。今年は西日本の豪雨被害、各地域の猛暑の報道のなか北海道で7月14・16日、二泊三日の日程で開催いたしました。初日は飛行機、JRのト

ランドホテルで開催の懇親会に遅れましたが、24名の参加がありました。初めに永年、会を支えてきた西島浩氏からこの1年の報告をしていただき、今回参加を希望されていた窪田勝也氏の突然のご逝去にご冥福を祈り黙祷を捧げた後、乾杯で宴に入りました。宴半ばでの近況報告では、出席者それぞれが何らかの形で医業に携わっており、75歳以上の後期高齢者に入った方、あとわずかで後期高齢者となる方々ではありましたが、年齢を感じさせないほど皆さん元気でパワーがみなぎっていました。2日目は大自然を満喫していただくために羊蹄山・洞爺湖・支笏湖を巡るツアーでしたが、朝からあいにくの雨で景色は霧が立ち込め、ほとんど眺めることが出来ませんでした。しこつ湖鶴雅リゾートスバ水の譚での夜の宴では、カラオケ等で盛り上がりすつかり学生時代に戻ったような時間を共有することが出来ました。

3日目によく天気回復し、支笏湖遊覧で湖水の深さを体験していただき、サッポロビール園の見学の後、北海道らしい食べ物ジンギスカンを味わっていただきました。会の最後は来年卒後50年を迎え、千葉での開催に多くの方が元気で集まれることを祈念し、千歳空港で解散しました。本州から来道された方々には涼しい数日間を過ごしていただけたのではないかと思います。

写真右から
前列：藤田仁子、星山夫人、篠原夫人、星山圭鉦、佐藤政教、奥村康、西島浩、高橋容子
後列：渡辺夫人、西島夫人、堀江弘、藤田夫君、堀江夫人、佐久川輝章、土川秀紀、篠原義賢、内海武彦、渡辺孝太郎、坂本建彦、高橋秀禎、奥村夫人、内海夫人、吉田夫人、吉田操
(藤田仁子)

開催予定の行事を

お知らせください

学会、研究集会、ゐのはな会、クラス会など種々の行事開催予定とその内容について同窓会事務室へお知らせください。本会報に掲載致します。なお、本会報の発行月は1月、5月、および9月です。

昭和53年卒同期会 (昭53)

平成30年10月6日、銀座三笠会館にて、昭和53年卒の同期会が開催されました。幹事は、学生時代からずーと、まとめ役の任を文句も言わず引き受けてい

る、新井貞男君、児玉和宏君、高良健司君です。38名の同級生が集まりました。六人の物故者への黙祷から始まった会は、容貌が余りにも変わってしまい、取り返しのつかないような切ない気持ちと、人柄がちつとも変わらないうで嬉しい、そ

して懐かしい気持ちだが、緬い交ぜになった不思議な空間でした。立食パーティーの中で、リレー形式で各人それぞれが、「今の自分」を話しました。まずは、千葉大学勤務中の織田成人君から「千葉大学の現況」、続いて、大学や公立病院で重責を果たしてきた面々の第2の職場について。更に、

織田成人、吉原俊雄、角南兼朗、張守和、加藤義治、寺井勝 後列：大島朋光、斎藤正之、鈴木文晴、小瀧勝、山城豊、山上岩男、高橋修、榊鏡年清、上田源次郎、宇田川晃一、菅沢寛健、李元浩、仲田勲生、新井竜夫、小河直之、上野泉、児玉和宏、布村正夫 (岩川真由美)



開業している院長先生達の忙しい毎日について。娘や息子や更に孫の話をする人も。共通していたのは、各自、医師としてまだまだ、バリバリ現役でやっているという事実です。私自身は、数日前にアフリカから帰国したばかりで、平均寿命が50歳に満たないアフリカ各地では、年寄りがこれだけ一同に集まるのを見ることはなく、その年寄り集団が、「元気で、これからも長生きしましょう」という大島朋光さんの閉会の辞に拍手喝采するのを見て、びっくり仰天した次第でした。

千葉大学フロンティア医学工学センター准教授川平洋君が、平成30年4月1日自治医科大学メデイカルシミュレーションセンター長兼教授に就任しました。それを祝って、平成30年9月8日東京駅近接の新丸の内ビル6階四川豆花飯荘で、参加者32人で会を開催しました。 会場の予約と設営、司会と進行は高瀬眼科院長の高瀬一嘉君が担当し、川平君と共に千葉大学の地域活性化活動「健康屋台」を運営してきた健康管理センター講師の潤間(渡辺) 励子さんが開会のあいさつをしました。医学部分子病態解析学教授の田中知明君が大学の現況を紹介しつつ、乾杯の音頭をとりました。

平成04会 (平4)



川平君には30分の講演をしてもらいました。千葉大第二外科の名誉教授故中山恒明先生の言葉「まず始めること、始めたならやめないこと」を引用して講演を始めた。川平君は平成4年に千葉大学医学部を卒業し、第二外科に入局。国内外のトップクラスの施設

(千葉大学、国立がん研究センター、UCSF、UCLAなど)で臨床研修や基礎研究を行い、着実に実績を積み重ねました。最近では産学連携を実践し、AIに取り組んだり、外科医のウェアラブル機器「アルケリス」を開発しました。その開発の経緯やマスコミ登

場についてもパワーポイントを使って楽しく説明してくれました。機器の開発により「医師を笑顔にすることは最終的には患者さんの笑顔に結びつく」という結びの言葉で講演は終了しました。 講演の後、花束贈呈をわらび中央内科クリニックの獅子原(藤田) 薫子さんが、記念品の贈呈を高瀬君が行いました。その後参加者一人ずつが川平君への激励と近況報告をしました。川平君の実家の鹿兒島までドライブした学生時代の思い出話やるのはな水泳部時代のエピソードが披露されました。 最後に東京医科大学分子病理学教授の真村瑞子さんが閉会の挨拶をし、小中台クリニック院長の池田雄次君の一本締めで会を終了しました。 同級生の活躍を祝いつつ、お互いの健康と多幸をお祈りしました。 写真右から 前列：桑高(山口) 公子、太田詔、真広智仁、樋口佳則、里見大介、川平洋、田中知明、相庭温臣、小宮顕 中列：奥村(山田) 恵子、澤井まゆみ、獅子原(藤田) 薫子、亀高尚、渡邊博幸、遠藤恒宏、稲葉(生月) 元子、真村瑞子、木村真二郎、

藤田耕司、服部祐爾、平野達也、潤間（渡辺）勵子、加藤佳瑞紀
後列・高瀬一嘉、吉田克彦、井上淳、杉田達哉、池田雄次、江畑康哉、窪田剛実、石井敦、中山（蔡）学、山崎健也
（加藤佳瑞紀）

43卒有志の海外旅行
（昭43）

私達43卒同級生有志は毎年海外旅行を楽しんで参りました。スイス、オーストラリア、アメリカ、果ては少数の旅行と成りましたが南アフリカのケープタウン、ヨーロッパ大陸の最西端となるポルトガルのロカ岬、オーストラリア、昨年はバルト三国を訪問し、リトアニアでは杉原千畝記念館を訪ね、日本人の誇りを実感させて頂いたりして参りました。この様な旅は実は今から20年前に、米国に住んでいた友人の元を訪ねるツアーから始まりました。その後、タイの友人や台湾を訪問することも有りましたが、7年前からより遠くの国を訪問するようになって参りました。そして今年は何と今までで最も遠い南米を旅行して参りました。平成30年10月5日から

12日までの8日間でしたが、片道30時間以上を掛けて訪問したのはブラジル、アルゼンチン、パラグアイの3国国境に位置するイグアスの滝とペルーのマチュピチュ散策の旅でした。今年、後期高齢者となる私達にとつては少々厳しいスケジュールでしたが、不調を訴える人も無く、7名全員で無事訪問して参りました。特にイグアスの滝は世界一の大きさを誇り、幅が4kmにも及ぶと聞いて、皆、以前から基礎知識があったとしても、実際に目の当たりにして改めて感激させられた事と思います。又、16世紀に僅か170名のスペイン人に滅ぼされたインカ帝国の遺跡や、その際に幸いにして発見されずに済んだマチュピチュの遺跡群は人類の偉大さを実感させてくれるに足る見事な物でした。これからも体力の続く限りいずれかの国を訪問し、見聞を深めて参りたいと思っております。
写真右から
（インカ自然動物園）
中村宏、諏訪夫人、東紘一郎、東夫人、諏訪敏一、神津玲子、神津夫君
（中村宏）



イグアスの滝



インカ自然動物園（放し飼いのコンドルと）

千葉県みのはな会
平成30年2月 第18号

千葉県みのはな会誌

追悼 渡邊 武 先生
特集 「遠隔医療」

Vol. 18 No. 1 2018年（平成30年）2月号

表紙題字：井出源四郎氏

目次

巻頭言……………秋葉 哲生（S50）… 1

追悼 渡邊武先生

渡邊武先生 御略歴…………… 2

初代会長 渡邊武先生を偲ぶ……………三枝 一雄（S32）… 3

渡邊武先生を偲んで……………栗原 伸夫（S38）… 4

渡邊武先生を偲んで……………阿部 一憲（S39）… 6

渡邊武先生を悼む……………伊藤 晴夫（S39）… 7

追悼 渡邊武先生（S27）……………秋葉 哲生（S50）… 8

渡邊武先生と「日本健康スポーツ科学センター」構想……………中村 真人（S54）… 9

Essay

就寝時間変更による高齢者への眠剤の激減策……………植村 研一（S34）… 12

海外医療ボランティア活動について……………藤塚 光慶（S43）… 13

私の臨床的研究……………杉本 和夫（S46）… 16

がんの痛みと緩和ケア

～シシリー・ソングラスを知っていますか～……………大岩 孝司（S47）… 17

広島より思い出話をします……………竹中 正治（S48）… 22

本学卒業（T11）のお二方の漢方入

～和田正系先生と矢数格先生～……………秋葉 哲生（S50）… 26

救急医学の不在……………秋葉 哲生（S50）… 29

製薬逸話…昭和7年「本草」第四号より……………好古亭老人（S50）… 30

特集「遠隔医療」

小児地域医療におけるオンライン診療の経験……………黒木 春郎（S59）… 31

～地域医療変革の可能性～……………吉村 健佑（H19）… 33

遠隔診療の実装に向けた政策動向……………吉村 健佑（H19）… 33

遠隔診療の現状と展望～オンライン診療アプリの700を超える導入事例から～
株式会社メドレー代表取締役医師 豊田剛一郎…………… 34

自己紹介

自己紹介文……………田邊 政裕（S49）… 38

俳句

野の光……………三枝かずを（S32）… 39

追悼 村山さとし氏（S26）…………… 39

玄冬の間……………神田たかし（S35）… 40

追悼 今留治子氏（S33卒今留淳氏夫人）…………… 40

報告

「次世代リーダー育成海外留学奨学生」制度立ち上げと第2期奨学生の活動報告
秋葉 哲生（S50）・吉村 健佑（H19）・千葉県みのはな会理事会…………… 41

ハーバード公衆衛生大学院留学報告

～世界一の環境について～……………上野 健（医学部4年）… 43

貢献は責任であり使命である

～ポストン留学で考えたこと～……………中西 志（医学部3年）… 45

第15回多鼻祭を終えて……………上條志莉子（医学部3年）… 47

千葉県みのはな会支援

「ホームカミングパーティー2017」が開催されました
吉村 健佑（H19）・三澤 園子（H11）・岩田 秀平（医学部6年）… 49

若手が考える千葉県みのはな会の未来

～千葉県みのはな会第1回若手理事による座談会報告～…………… 50

千葉大学医学部に関する同窓会組織について…………… 52

平成29年度千葉県みのはな会総会・シンポジウムのご報告

高橋 宏和（H11）… 53

平成30年度総会案内…………… 56

千葉県みのはな会メンバーリスト・フェイスブックについて…………… 57

平成28年度千葉県みのはな会会計報告…………… 59

平成29年度会費納入者一覧…………… 60

千葉県みのはな会会則…………… 62

編集後記・投稿規定…………… 63

表紙「南仏 プロバンスの田園」山口 宗彦（S38）

埼玉るのほな会 2018年8月 第19号

埼玉るのほな

千葉大学医学部るのほな同窓会埼玉県支部

第19号 2018年8月



埼玉るのほな 第19号 2018年(平成30年) 目次

ご挨拶	
ごあいさつ	吉川 廣和 …… 1
埼玉県支部総会ご案内	
お知らせ	吉川 廣和 …… 2
お祝	
米寿	
米寿を迎えて。	伊藤 敏夫 …… 3
叙 勲	高橋 康 …… 3
るのほな会に感謝	森 碧 …… 5
お悔やみ	
弔辞	
井上 幸万 先生を偲んで	伊藤 敏夫 …… 7
計報	
計 報	伊藤 敏夫 …… 8
木村 滋先生のお手紙	木村 泰子 …… 8
話の広場	
短歌	日々の診療カルテ(其の六) …… 根岸ゆきのり …… 9
随想	29会と人生希望寮の先輩達 …… 永田 一郎 …… 13
	襦袢張り …… 松本 生 …… 14
	心に残る症例
	「尊厳死」の選択、自宅で「最後のピアノコンサート」 …… 大場 敏明 …… 16
	定年航海記3 …… 門山 周文 …… 18
	患者さんの自撮り動画で診断できた不随意眼球運動 —Superior Oblique Myokymia (SOM) の一例—
趣味	得丸 幸夫 …… 21
	マラーの音楽(第7回) …… 上野 泉 …… 24
	連載・天体写真録(8)
	メシエ天体カタログ第2巻 …… 杉浦 敏之 …… 33
近況報告	深谷赤十字病院 …… 伊藤 博 …… 38
	医療法人熊谷総合病院 …… 今野 慎 …… 39
	さいたま赤十字病院 …… 甲嶋 洋平 …… 40
ゴルフ部から	
るのほな会ゴルフコンペ優勝の記	諏訪 敏一 …… 42
埼玉県支部から	
ご挨拶とお祝い	中村 勉 …… 44
平成29年度埼玉県支部決算報告	中村 勉 …… 44
埼玉県支部規約	…… 46
お願い・原稿募集	中村 勉 …… 47
表紙写真のご案内	野口 哲夫 …… 48
編集後記	野口 哲夫 …… 49

神奈川るのほな会 平成30年 29号

るのほな・かながわ(平成30年9月1日)

るのほな かながわ



神奈川るのほな会・千葉大学るのほな同窓会神奈川支部

平成30年 29号

るのほな・かながわ 第29号 目次

巻頭言	不思議なご縁	三科孝夫	2
総会	平成30年度総会開催報告	高山篤也	4
	平成29年度神奈川るのほな会庶務報告		6
	平成29年度決算報告・平成30年度予算案		6
	総会風景		7
	集合写真		8
病院めぐり	湘南藤沢徳洲会病院	赤坂 武	9
医学トピックス	血液造血管腫瘍の治療の進歩	平澤 晃	12
身辺雑記	パイプオルガンの響き	森 富喜子	16
	馬船と俳句	高橋 功	18
	1974年一僕は誤った選択をしたのだろうか?—	栗原和男	20
	毎年同じ夏休み	中村 全	23
	ウィークリーマンション滞在記 in フィンランド	玉置正勝	26
	ご挨拶	赤澤 努	30
表紙の写真		事務局	32
計報			32
事務局より			32
編集後記			33

地字・中村隆次/写真・小堀朝明

研修プログラム

形成外科学

千葉大学大学院医学研究院
形成外科学

教授 三川 信之 (東京医大・平3)

新たな専門医研修制度が発足しましたが、2019年度は千葉大学形成外科の発足以来、最多人数となる専攻医が千葉大学病院形成外科専門医プログラムを選択いたしました。我々は未来の形成外科専門医たちが、充実した研修生活を送り、より多くの患者様の治療に貢献できる実力をつけていただくべく、研修プログラムを組んでいます。

形成外科の対象疾患は極めて多岐にわたります。専門医の取得までの間は、偏りなく形成外科医としての知識と技術を吸収することが重要です。大学病院での高度な専門性を要する疾患、外傷を中心とした救急領域での形成外科的手術、先天異常を中心とした小児形成外科、悪性腫瘍の再建、その他形成外科医として必須の様々な手術技術を、それぞれの専門領域において熟練した指導医から

専門医を取得した後はできればサブスペシャリティを持ち、それを発展させていくことが望まれます。若い先生のやりたいこと、極めたこと、その領域を極力優べるようなプログラムを推進しています。専攻医として過ごす4年間に、様々な疾患と出会い、基礎研究にも興味を持っていただくことは、優れた形成外科専門医になるため、そしてサブスペシャリティを見つけるためにも、非常に大切なことだと考えます。

専攻医を一流形成外科医へと育む我々の弛まぬ努力は、彼らの将来の活躍を通じて、形成外科学そのものの発展に繋がるものだと信じています。研修プログラムを常に最良のものへと更新すべく、今後とも真摯に取り組んで参りたいと思っております。

千葉県がんセンター

病院長・千葉大学医学部臨床教授

山口 武人 (昭56)

千葉県がんセンターは昭和47年、国立がんセンター、愛知県がんセンターに次いで国内3番目のがん専門病院として開設されました。その後、年々増加するがんの重症に向け、千葉県におけるがん対策の中心的役割を果たしてきました。現在、病床数341床、医師数(レジデ



千葉県がんセンター新病院完成予想図 (2020年完成予定)

ント、研修医含む) 102名、28の診療科・診療部でがんの患者さんの診療にあたっています。2017年度の外来患者延べ数122,962人、入院患者延べ81,029人と、数多くのがん患者さんのがん診療を行っています。

当センターは、2018年4月、都道府県がん診療連携拠点病院に再指定されました。都道府県内で中心的役割を果たすよう厚生労働大臣が指定した病院で、原則として各都道府県に1カ所置かれています。専門的ながん医療を提供するとともに、千葉県内のがん診療の連携協力体制の整備や、がんに関する相談支援情報の提供を担っています。また、医療の質の向上のため、日本医療機能評価機構による病院機能評価(3rd G: ver.1)を受審し、認定証(一般病院2および緩和ケア病棟)の更新も行ってまいりました。

【初期臨床研修】

千葉県がんセンターを基幹病院とした県立6病院(救急医療センター、循環器病センター、精神医療センター)、こども病院、佐原病院)による、千葉県立病院群卒後臨床研修プログラムを掲げ、初期臨床研修医の募集を行っています。プログラムの中には必修科として千葉県がんセンター外科、内科、選択科として麻酔科、緩和医療科が組み込まれています。また、千葉東病院、ジェイコー千葉病院、千葉ろうさい病院など、複数の中核病院を協力型病院とし、また保健所や地域病院を協力施設として構成されています。

プログラムの大きな特徴は、がんセンターやこども病院などの専門病院を中心とした部分と、地域の中核病院(佐原病院)をあわせたい形の研修ができるということです。地域の中核病院では一般的な病気(communicable disease)の診療や、救急処置への対応で実経験を積むことができます。また、専門病院には学会などでも活躍している医師が指導医として多くおり、専門的な診断や治療に関してスペシャリストの指導を受けることができることも魅力です。このように、地域中核病院と高度専門センター病院のローテーション研修により、幅広い臨床経験を積み上げることができ、プライマリケアを中心としながらも高度専門医療についても研修することができ、異なる病院内でいろいろな立場の医師と知り合い指導

千葉県がんセンターを基幹病院とした県立6病院(救急医療センター、循環器病センター、精神医療センター)、こども病院、佐原病院)による、千葉県立病院群卒後臨床研修プログラムを掲げ、初期臨床研修医の募集を行っています。プログラムの中には必修科として千葉県がんセンター外科、内科、選択科として麻酔科、緩和医療科が組み込まれています。また、千葉東病院、ジェイコー千葉病院、千葉ろうさい病院など、複数の中核病院を協力型病院とし、また保健所や地域病院を協力施設として構成されています。

プログラムの大きな特徴は、がんセンターやこども病院などの専門病院を中心とした部分と、地域の中核病院(佐原病院)をあわせたい形の研修ができるということです。地域の中核病院では一般的な病気(communicable disease)の診療や、救急処置への対応で実経験を積むことができます。また、専門病院には学会などでも活躍している医師が指導医として多くおり、専門的な診断や治療に関してスペシャリストの指導を受けることができることも魅力です。このように、地域中核病院と高度専門センター病院のローテーション研修により、幅広い臨床経験を積み上げることができ、プライマリケアを中心としながらも高度専門医療についても研修することができ、異なる病院内でいろいろな立場の医師と知り合い指導



を受けることは、他の病院の研修体制とは違った本研修プログラムの特色の1つといえます。また、福利厚生も充実しています。病院のローテーションで心配な住居に関して、費用はすべて県が負担します。給与についても一般の病院よりも高めに設定されています。宿舎は無料ですし、経済的には恵まれていることと思います。なお研修2年時は、必修科目の2か月を除いた10か月間、自身の選択で病院、診療科を選び研修することができ、将来進もうと考えている診療科の研修を卒業2年目から行うことも可能です。

【後期研修】

千葉県立病院群レジデント制度では、研修医が最短で専門医資格を取得できるように研修をサポートします。また、それぞれの分野で実績のある他の研修病院との連携により、各研修病院の専門性や地域性を生かしつつ、豊富な症例を確保しています。特徴としては、研修カリキュラムの作成にあたって自分の意向を反映させることができ、研修中も指導責任者との綿密な話し合いによりカリキュラムの変更（国立がん研究センターなど他施設での研

修も可能）ができる点です。平成31年度は新しい専門医制度に対応した5領域と17のサブスペシャリティ領域で研修プログラムを実施します。基本領域は小児科、精神科、放射線科、救急科、総合診療科、またサブスペシャルティ領域は内科系6領域、外科系4領域、小児科系7領域で、研修プログラムを用意しています。連携施設としては本領域において千葉大学病院、旭中央病院、亀田総合病院、千葉ろうさい病院などの基幹病院との連携もおこなっています。さらに、専門医資格取得後は希望に基づき、県立病院の正規職員として勤務することも可能です（これまでレジデント終了後に38名が県立病院の常勤医に採用されています）。

【連携大学院】

千葉県がんセンター研究所には千葉大学大学院医学薬学府との連携大学院、「分子腫瘍生物学」講座が開設されており、博士課程（4年）への入学が可能です。連携大学院では、発がん機構やがん細胞の生物学的特性の分子レベルでの解明や、臨床とのトランスレーショナルリサーチあるいは新規抗癌治療法の開発など基礎研究を行うことができます。博士課程終了後は、千葉大学大学院医学薬学府連携大学院から博士号が授与されます。連携大学院は後期研修期間中に受験が可能であり、現在5名がレジデントから入学しています。

本研修制度の大きな魅力の一つとして、研修期間中に海外研修制度を利用し、海外研修を行うことができます（短期海外留学）。研修期間は1ヵ月間で、渡航費用、滞在費用はすべて県が補助してくれます（上限100万円）。

現在、千葉県がんセンターでは新病院の工事を進めており、2020年度中の完成を目指しています。病床も100床以上増床し、450床となる予定です。医療設備も最新の機器を取り入れる予定であり、高度ながん医療に対応できる体制整備を行っています。新しい病院の高度な医療体制の下でぜひ、充実した卒業研修を行っていただきたいと願っています。



研修医だより

循環器内科での後期研修に臨んで

千葉大学医学部附属病院
循環器内科

八島 聡 美 (平25)



私は千葉ろうさい病院と千葉大学医学部附属病院で初期研修を終えたのち、平成28年に千葉大学医学部附属病院・循環器内科へ入局いたしました。入局後は千葉県循環器病センター、千葉ろうさい病院で後期研修医として2年間勉強させていただきました。現在は千葉大学医学部附属病院で研修を継続しております。

一方で、高齢化社会に伴って増加している末期心不全などの慢性期医療においては、患者様の希望に寄り添った繊細な治療提供が必要となります。単一臓器ながら幅の広い診療内容に、日々大いにやりがいを感じております。

現在は大学院で病棟業務に従事し最先端の医療に触れる傍ら、将来専門にしたいと考えている心エコーについて学んでいます。心エコーは非侵襲的でベッドサイドでも行える簡便な手技ですが、再現性のある画像の記録やその読影などで専門性を要求される大変奥深い検査であり、その結果が手術を含めた治療方針を左右することも少なくありません。またTAVI（経カテーテル的大動脈弁置換術）等先進治療の現場にも参加するなど活躍の場が今後も広がっていくと思われ、大変魅力を感じております。

実際に相談させていただいております。どの先生も気さくかつ丁寧にご教授くださり、難しい症例に取り組みことの多い大学病院でも安心して診療に当たることができております。

このように、循環器内科の後期研修は大学病院でも関連病院でも大変恵まれた環境で充実した日々を送っています。私自身未熟でまだまだ勉強すべきことが多い状況ではありますが、頼れる先輩方を目標に今後とも励んで参る所存です。本年度は新内科専門医制度に即して循環器のみならず内科総合的な後期研修を送れるよう、関連病院とも連携して研修内容をブラッシュアップしているそうです。意欲ある若い先生方と共に働ける日がくることを楽しみにしております。

循環器内科の魅力はダイナミックさと細やかさの双方を大事にする診療内容にあると考えています。心筋梗塞などの緊急性が高く生死に直結するような疾患においては瞬間瞬間の厳しさを実感すると共に、患者様が元気に退院されたときには大きな充足感を得られます。

そんな循環器診療の基礎を学んだ関連病院での後期研修の2年間はとても充実したものでした。県立循環器病センターでは多くの循環器症例を担当し、早期から心カテーテルやペースメーカー植え込み術など実践的な手技に触れることができました。千葉ろうさい病院では総合病院の中での循環器内科として他科と連携しながら臨床経験を積みましました。また年2回開催される後期研修医のコンペティションでは指導医の先生方にご教授いただきながら臨床研究を行い、研究の基礎を学ぶ貴重な機会となりました。

第9回 白衣式のご案内
(2018年度 Student Doctor)

日時：2019年2月1日（金）
午後2時～4時
(受付開始 午後1時30分)

場所：千葉大学医学部
るのほな記念講堂

問い合わせ先：
千葉大学医学部学務係
043-222-7171 (内線5061)

追 悼

大濱博利先生、

安らかにお休みください

千葉県のはな会長 秋葉 哲生(昭50)



千葉県のはな会の第二... 博利先生(昭27)が逝去され... 追悼の言葉を述べさせていただきます。

千葉県も県のはな会として... 通常の会長は、「佳き

雑 文 雑 談

矯正図書館

石出 猛 史(昭52)

はからえ」とばかりに、若手に投げるところを、大濱先生はほとんどをご自分でなさってしまわれるのでした。(当時の)若手のひとりとして、「会長に申し訳ない」という気持ちがいっつも心に掛かっていたことを思い起こします。多年のご指導に感謝いたします。大濱博利先生、やすらかにお休みください。



矯正図書館から創立50周年記念の展示会と講演の案内をいただいたので出かけてきた。矯正図書館といってもご存知の方は少ないと思う。公益財団法人矯正協会の一部門で、犯罪と非行の処遇や刑事政策に関する専門図書館である。矯正協会の源は、司法制度と監獄の改良と整備を民間の立場から支援することを目的として、明治12年(1879)に設立された大日本監獄協会で、その後刑務協会と改称され、戦後さらに矯正協会と改められた。公益財団法人になる前は法務省の所管であった。

この記念事業の一環で、明治大学文学部の青柳英治教授が専門図書館の特徴について述べられている。その設置に関する法的根拠をもたない組織内図書館であるが、それゆえにその目的使命が明確であることが一般の図書館とは異なる点である。JR中野駅の北口を出ると左前方に中野サンプラザが見える。隣接した区役所の前に犬の像が数個置かれている。五代将軍徳川綱吉が發布した稀代の悪法「生類憐みの令」の実施に伴って犬を収容するための「中野御用屋敷」が設けられた場所である。犬小屋は大久保・四谷にも設けられたが、中野のそれは16万坪あり最大の規模であった。この犬小屋の管理責任者には幕府の若年寄があてられた。この悪法の飛ばつちりを受けたのは庶民だけではなく、遠島に処せられた旗本も少なからずいた。家禄・財産・拝領屋敷はすべて没収されるので御家断絶である。

ここから北に向って西武新宿線の沼袋駅の方角に10分程歩くと、左手に矯正協会の建物が見えてくる。ここからさらに北東に徒歩で15分程の所、新宿区との境に哲学堂公園がある。ここは中野区では相当に知られた場所のようである。哲学堂は東洋大学の創立者で日本の妖怪の研究で知られる哲学者井上円了が、ソクラテス、カント、孔子、釈迦を祀って「四聖堂」を建設し後に改称したものである。その後東京都に寄贈されて現在は中野区の管理になっている。2009年に東京都の名勝に指定された。ここは鎌倉幕府の有力御家人和田義盛の居館であったとも伝えられている。矯正図書館は矯正協会の建物(矯正会館)の3階を占めている。1階は収監者が刑務所内で製作した物品の展示即売コーナーになっている。ここで売れ筋No.1という「よく落ちる石鹼」という棒状の洗濯石鹼を数個購入して、後で知人たちに配った。もらって喜んだかどうかは判らない。この地には昭和58年(1983)に閉鎖されるまで中野刑務所が置かれていた。

この刑務所の起源は江戸幕府の小伝馬町牢屋敷とされている。明治8年(1857)新たに新設された市ヶ谷監獄に移転した。牢屋敷はすぐに取り壊されたわけではなく、しばらくの間病囚を収容する施設として使われていたとあるが、取り壊された年月日の明確な記述は見当たらない。『日本近世行刑史稿』の明治9年(1876)2月の条に「伝馬町囚獄跡を仮懲治監とし無籍者並売淫

苦使の者を収容す」とあり、同年4月の記述に「伝馬町囚獄跡を入札私下に付し」という記述があるので、明治9年2月から4月の間に取り壊されたのであろう。更に大正5年(1916)中野区野方の現在地に移転、豊多摩監獄・豊多摩刑務所と名称の変遷があったが、戦後は接収されて米軍の陸軍刑務所として使われ返還後中野刑務所と改められた。治安維持法を適用された思想犯が多く収監されていたことで知られている。大杉栄、小林多喜二、荒畑寒村、河上肇らの名前がみられ、昭和20年三木清が獄死したのもこの刑務所である。昭和36年(1961)には囚人2人が刑務官を撲殺して脱獄するという事件がおこった。

同窓会員のご逝去に際し、弔文の掲載をご希望される方は、同窓会本部へ原稿をお送りください。

(つづく)

学生教育

平成29年度学長賞

学術研究活動賞を受賞して

医学部6年 青山辰次

この度は平成29年度学長賞学術研究活動賞、並びに千葉大学学術研究学生支援制度に基づく奨学金を拝受致しましたこと誠に感謝申し上げます。

私は現在、脳神経内科学教室で研究のご指導を頂いており、進行性多巣性白質脳症(PML)のリスク予測因子と提唱されている抗JCウイルス抗体指数に関して日本人多発性硬化症患者における疫学調査をテーマに研究を継続しております。

研究の成果は世界神経学会議・日本神経学会学術大会等の学会発表、英文誌での原著論文の形で発表させて



(左) 青山辰次さん (医6)
(右) 脳神経内科学 准教授 森雅裕先生 (平3)

頂いております。研究の実施にあたりましてはこの場をお借りして、脳神経内科学教室桑原聡教授、森雅裕先生をはじめ教室員の先生方に厚く御礼申し上げます。

研究のきっかけですが、以前よりセミナー等でお会いしてご懇意にさせて頂いておりました森雅裕先生に、何らかの形で研究活動に参加してみたいという漠然としたお願いをしたところ、快諾されて上記のテーマを提案頂き、それより1年以上の間ご指導を頂いている次第です。それ以来、情報収集、統計学、学会スライド作成、論文作

成など不慣れなことが多々ございましたが、一から丁寧に指導いただきまして、何とかある程度の形にはできたかと思えます。

この期間、学会での他の研究者との意見のやり取りや論文投稿での査読者とのメールのやり取りなど、非常にやりがいのあることが多々あり日々刺激を受けておりました。今後も現在のテーマを発展させつつ継続していく所存でございます。

最後に今回、学術研究活動賞の授賞式に参加させて頂いた際、自分の他にも多くの同輩、先輩の学生たちが研究活動に参加してそれ

指導医より

脳神経内科学

准教授

森 雅 裕 (平3)

青山辰次君は脳神経内科の、特に「神経免疫」に興味を持ってきていたため、私のところで研究を開始することにしました。現在、多発性硬化症治療中の進行性多巣性白質脳症が当科では大きな問題となっているのですが、その原因ウイルスのJCウイルス抗体価に関する当科患者さんのデータをまとめることを研究課題として提案しました。彼はそれを短期間で緻密に解

ぞれの分野で多彩な活躍をしていることに感嘆致しました。今回拝受しました奨学金につきましても、手厚い支援体制と学生の研究活動に対する大らかな大学の気風が揃ったことかと思っております。千葉大学医学部生にはスカラシッププログラムでの研究室配属、ちばBCRCなど学生が研究活動に触れる機会も多々あります。こうしたプログラムを通して研究活動に少しでも興味を持った学生の方々は是非、積極的に先生方にご相談して頂ければと思います。この度は誠にありがとうございました。

千葉大学みのほな同窓会 会員の皆様へ

「会員総合補償制度」のご案内

団体割引適用

保険期間：2019年3月1日午後4時～2020年3月1日午後4時（中途加入随時受付）

4つの安心で、先生方を しっかりサポート

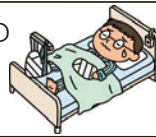
産業医等の業務もカバー可能に！

万一の **医療事故** を補償



働けなくなった時の

収入 を補償



地震によるケガも補償！

日常生活の**ケガ** を補償



万一の **がん**

病気・介護 も



【お問合せ先・取扱代理店】

PIONEER 株式会社バイオニア

Tel: 0120-36-8442

(平日8:30～17:45)

<https://www.pioneerltd.com/>

【資料請求はこちらから】



※パンフレット等資料のご請求やお申込みは、右記取扱代理店までお問い合わせください。



地球の未来にできること。
マングローブ「海の森」づくりは、
その答えのひとつです。



東京海上日動

To Be a Good Company

東京都千代田区丸の内1-2-1 〒100-8050 ☎0120-868-100

平日 午前9時～午後8時、土日祝日 午前9時～午後6時

<http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/>

【引受保険会社】

東京海上日動火災保険株式会社

(担当課) 医療・福祉法人部法人第一課

Tel: 03-3515-4143 (平日9:00～17:00)

この広告は勤務医師賠償責任保険、産業医等活動保険、団体総合生活保険の概要についてご紹介したものです。保険の内容はパンフレットでご確認ください。また、ご加入に当たっては、必ず重要事項説明をよくお読みください。詳細は団体代表者の方にお渡ししてあります保険約款および協定書によりますが、ご不明な点は取扱代理店または引受保険会社へお尋ねください。

平成30年5月 18-T02571

な目標となり研究を後押しして、くれた学長賞学術研究活動賞を授与してください。

平成29年度学長賞

学術研究活動賞を受賞して

医学部5年 小山 玄太郎

平成29年度学術研究活動賞、学術研究学生支援制度による奨学金を頂戴し、過褒に恐縮するとともに、賞に込められた期待の重さに身が引き締まる思いでございます。本受賞は、小林欣夫教授、船橋伸禎先生、藤本善英先生をはじめ循環器内科学教室の先生方の御指導の賜であり、深く御礼申し上げます。

本賞は昨年、日本循環器学会関東甲信越地方会 Student Award の最優秀賞につづいて選考されました。同会で発表したのは、「320列CTを用いた冠動脈ステント開存度の半定量評価」と題する報告です。これは、画像診断専門の先生からC

た千葉大学長の徳久剛史先生および関係者の皆様により御礼申し上げます。

CTを用いた冠動脈評価、冠動脈疾患治療部の先生から冠動脈インターベンションについてそれぞれご指導を頂き、これを基に私なりにCT画像の読影を試みて冠動脈の評価をしたもので

私は、3年時より心電図の判読を学び始め、その過程で、先生から循環器系の勉強にお誘い頂きました。臨床研究にも携わりたいと希望しておりましたのでありがたくお受けし、以後「循環器領域の画像診断における問題点を学生の視点から探る」を主題に幾つか学会発表の機会を得る傍々にも恵まれました。

臨床研究にあつては、ベツ



小山玄太郎さん (医5)

ドサイドで患者さんに向き合い、そのQOL向上を目的にいかなる研究が求められているかを日々見定める姿勢が重要であると銘記しているところ。また、臨床研究の成果は、眼前の患者さんのみならず、将来の多くの患者さんを疾病から解く治療法の開発に繋が

指導医より

循環器内科 准教授 船橋伸禎(平元)

小山玄太郎君は2016年に当科で開始した心電図検定勉強会の主要参加メンバーの一名です。ゼロからのスタートでしたが、同級の平井健太郎君とともに

り、そこに医師としての醍醐味があるとも感じます。将来、何れの診療科に進むにせよ、常に研究マインドを忘れない臨床医たるべく勉強を重ねて参ります。先生先輩方におかれましては、よろしく御指導下さいますよう御願ひ申し上げます。

2018年国際交流・学生留学報告 医学教育研究室 国際交流担当 稲川知子(熊本大・平11)

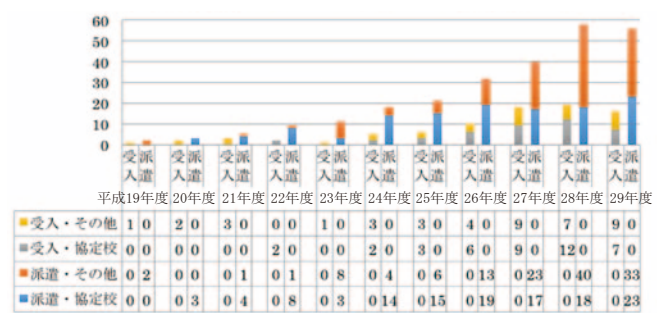
2008年からはじまった交換留学プログラムも今年で10年目を迎えました。開始当時はアメリカのイリノイ州立大学シカゴ校の1校でしたが、2018年11月現在、表1に示す通り計17校の相互の大学間でクリニカルクラークシップ受講について公式な単位取得が可能となりました。また、図1のように、派遣する学生数は年々増加傾向にあり、学生の留学に関する意識は高まっています。派遣のみならず、それぞれの協定校からも千葉大学医学部での臨床実習への申し込みも増えています。こうした学生のグローバル意識を支えるカリキュラムが6年一貫医学英語プログラムであり、1〜3年生の医学英語教育は、医療コミュニケーションに加え、英語をツールとして学ぶ履歴書や志望動機の書き方、また英語でのプレゼンテーションスキルを学ぶことで、海外留学はもろ

のこと、卒後の海外での医療や研究を見据えたスキルを学ぶ場となっております。さらに臨床留学希望者を対象とした3〜4年生のアドバンスト医学英語では、英語を話す模擬患者(出身・ブラジル・アフリカ・ブータン・日本など)を相手に英語医療面接法、身体検査などを実習形式で学習します。このような医学英語教育と海外協定校の派遣には、現在医学教育研究室の外国人教員2名(常勤1名、非常勤1名)と日本人教員1名が担当しており、さらに英語能力の高い事務担当者や模擬患者の授業の割り振り等の事務手続きを行っ

(表1) 海外クリニカルクラークシップ派遣先協定校

部局間交流協定校	米国：イリノイ大学シカゴ校・トーマスジェファーソン大学・カリフォルニア大学サンディエゴ校・南カリフォルニア大学ケック校、ブラジル：リオグランデ・ド・スル連邦大学、英国：レスター大学、デンマーク：オーフス大学、シンガポール：南洋理工大学、台湾：台北医学大学、ベトナム：ホーチミンシティー医学薬学大学、韓国：インジェ大学、中国：武漢大学
大学間交流協定校	ドイツ：ベルリン大学医学部附属シャリテ病院・ライプツィヒ大学・デュッセルドルフ大学、タイ：マヒドン大学医学部附属シリラー病院、中国：天津中医薬大学

(図1) 千葉大学医学部国際プログラム 留学者推移



ています。

2018年10月18日には2017年に留学した学生らによる「13th International symposium (留学報告会)」を開催しました。アメリカ、ヨーロッパ、アジアの各地13校に留学した学生16名がそれぞれの経験を英語で発表し、学生らによる英語での司会で進められました。西千葉キャンパスの留学生課の方をはじめ、1年生から5年生までおよそ50名が集まり、後輩からからの質疑応答も活発に行われました。この報告会

開催には同窓会から支援賜り、厚く御礼申し上げます。 2018年6月28日には韓国・インジュ大学から副学部長をはじめ4名の教員の方々と千葉大学医学部に招き、インジュ大学・千葉大学ジョイントセミナーを開催しました。「Mentoring and Role Modeling in Medical Education」を題して、各大学



13th International symposium (2018年10月18日 あのはな同窓会館にて)

での学生支援の紹介をしたのちに、それぞれの問題点について活発に議論をしました。このように学生のみならず教員同士の交流を深め、互いの特徴や文化を理解することで部局間・大学間学生交流が拡大していくように思います。

医学英語で英語力を高め、国際交流プログラムのなかから、現在海外で活躍している方が増えています。その後、引き続き学生に期待します。

英国リーズ大学小児科での臨床実習

医学部6年 神田 珠莉

この度、医学教育振興財団の英国短期留学プログラムによる派遣により、リーズ大学の小児科で1か月実習を行ったため報告いたします。

現地で最も長い時間を過ごしたのは、Children's Assessment & Treatment Unit (CAT unit) という場所です。ここにはGeneral Practitionerや助産師などから紹介された急性期の小児患者が来ます。学生もGreenにトリージされた患者の問診、診察、カルテ記載、医師へのプレゼンテーションを行うことができ、私もたくさん経験を積ませていただきました。日本では同様の経験が少なく、最初の1週間はとて



CAT unitのある Jubilee Wing 入口

も辛く感じましたが、それでも毎日CAT unitに足を運び、少しずつできることを増やすことができました。見学した小児専門外来の中で最も印象的だったのは、Neurodisability Clinicでした。医師が親と

話している間、子ども達と遊ぶ機会をいただき、自閉症の症状の幅広さや子どもの発達について理解を深めることができました。医師の先生が脳性麻痺について説明してくださった際に、「大切なことはその人がどう見えるか以上に、自分の属しているコミュニティに参加できることなんだ」とおっしゃっていたことも印象的でした。

Martin House Children's Hospiceにも見学に行きました。利用している子ども達だけでなく、その親や兄弟もくつろいだり走り回ったりと、ホスピスは温かさだけでなく楽しさにあふれた場所でした。こ

もの Advance Care Plan について医師と両親が話し合う機会にも同席し、医療においてコミュニケーションがいかに大切かを実感しました。本留学は、日本と英国の

インジュ大学海雲台パーク病院での実習

医学部6年 有賀 翔太

私は2018年2月に韓国釜山にあるインジュ大学海雲台パーク病院で実習する機会を頂いた。今回このプログラムに応募した理由は非常にシンプルで日本以外の医療の現場を見てみたい、海外の医学生と交流してみたいと思ったことだ。

2週間の外科実習では主に病棟回診、手術見学、外来、ICU業務などを行った。救急科では1週間、救急外来にて搬送されてくる患者さんのファーストタッチを研修医の先生と共に行った。韓国語の診察内容を英語で説明していただいたり、韓国の学生の助けにより現場での理解を深める事ができた。

千葉大学の実習に比べると、韓国の学生は手技を多く行い、積極的に取り組んでいる印象を受けた。韓国の医学生は、韓国語の教科書だけでは全ての範囲を学

医療の違いを学ぶだけでなく、医療において普遍的に大切なことについて考える機会ともなりました。支えてくださったすべての方にこの場を借りて御礼申し上げます。

ぶことができず、英語の教科書を併用していた。また英語教育はステータスの一つであるとされ、多くの学生は日本の学生に比べて英語が堪能であるという印象を受けた。日本の医学生は日本語でほとんどを学ぶことが出来る一方で、医学英語での壁を感じる人も少なくないだろう。この留学を通して英語力向上の努力を一層しなければならぬと痛感した。また韓国では兵役という国

特有の義務があり、医師としてのキャリア形成を考えるうえで大きな課題となっており、男子学生の苦悩の一端をうかがい知る事



外科、ICUの先生方とともに (筆者右から2人目)

ができた。 今回の留学を通じて、お互いがsecond languageの英語だけをツールとして、コミュニケーションする事の難しさや、言語は違っても医学という共通の学問を通して分かり合えた時の喜びを同時に学ぶことができた。また日韓問題など政治的な背景や、留学中に竹島の日とされる日もあったが、差別や偏見の目で見られる事は無かった。留学応募から韓国人Dr.とのメールのやりとり、滞在を終えるまでを通して、国を超えていても、大切なのは人間関係の構築であり、それが全ての根底にある事を実感した。そのため手段としてこれからも英語を勉強するとともに、グローバルな視点で医師として精進していきたい。



Chiba Basic & Clinical Research Conference

日 程 2019年2月2日(土) 13:00 - 17:00
場 所 千葉大学ゐのほな記念講堂

司会 千葉大学医学部1年 山本えみり

13:00

開会の辞 Opening Remarks
 千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授 白澤 浩 先生

13:15

講座紹介 Laboratory Introduction
座長 千葉大学大学院医学研究院疾患生命医学教授 幡野 雅彦 先生
演者 千葉大学大学院医学研究院薬理学 教授 安西 尚彦 先生
 『細胞膜物質透過の分子機序解明から創薬へ』
演者 千葉大学大学院医学研究院脳神経外科学教授 岩立 康男 先生
 『脳腫瘍の後遺症無き治癒を目指して』

14:05

学生発表 Students' Presentation

座長 千葉大学医学部	5年	大森 智瑛
千葉大学医学部	1年	佐賀 樹
演者 千葉大学医学部	5年	杉田 明徳
千葉大学医学部	5年	本吉 究
千葉大学医学部	5年	横田 英博
千葉大学医学部	4年	日浦 伸宏
千葉大学医学部	3年	小川 聡美
千葉大学医学部	3年	知識 柔一

15:40

特別講演 Special Lecture
座長 千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授 白澤 浩 先生
演者 千葉大学医学部附属病院長 山本 修一 先生
 『不治の眼病に挑む』

16:40

講 評 Review
 千葉大学大学長 徳久 剛史 先生

16:45

学生講演表彰・閉会の辞 Commendation/Closing Remarks
 千葉大学大学院医学研究院長・医学部長 中山 俊憲 先生

17:30
|
19:00

情報交換会 Receptions
場 所：千葉大学ゐのほな記念講堂ホワイエ
会 費：教員 1000円 教員以外 100円

世話人

千葉大学長	徳久 剛史	国際医療福祉大学三田病院長	官崎 勝
千葉大学理事	中谷 晴昭	千葉大学大学院医学研究院整形外科前教授	高橋 和久
千葉大学院医学研究院長・医学部長	中山 俊憲	千葉大学大学院医学研究院分子ウイルス学教授	白澤 浩
千葉大学医学部附属病院長	山本 修一	千葉大学大学院医学研究院アレルギー・臨床免疫学教授	中島 裕史
千葉労災病院長	河野 陽一	千葉大学大学院医学研究院整形外科学教授	大島 精司
船橋中央病院長	横須賀 収	千葉大学バイオメディカルセンター准教授	坂本 明美

事務局

千葉大学バイオメディカル研究センター内 内線 7901
 担当：坂本 E-mail: sakamoto@faculty.chiba-u.jp
 学生代表：千葉大学3年 小川聡美

主催 千葉大学大学院医学研究院・医学部 **共催** ちば BASIC & CLINICAL CONFERENCE 事務局, 千葉医学会, ゐのほな同窓会

学内情報

第16回 亥鼻祭のご報告

亥鼻祭実行委員サークル実行委員長
 医学部3年 國富美由
 福島 剛

2018年11月4日(日)に第16回亥鼻祭が無事開催できましたことをここに報告いたします。当日は雨予報の中、午後まではなんとか持ちこたえ、その後は天気にも恵まれなかったものの、たくさんの方に足を運んでいただきました。昨年度に引き続き、今年度も1日開催となった中、約2100人の方々に亥鼻祭を楽しんでいただくことができました。

昨年度発足いたしました亥鼻祭実行委員サークルは、3年生が主体として動くだけでなく、2年生や今年入学したばかりの1年生まで積極的に活動を行いました。「開催のお知らせ」で目標に掲げていました、内部体制の確立に一步近づいたことができたのではないかと思います。全体ミーティングを通じて積極的に意見を交換しあったり、ステージ背景の作成で夜遅く



まで協力し合って活動したり、様々な活動を通じて学年を超えて委員が団結して

いく様子を感じることができました。当日も突然の雨に対して委員全員が一致団結して対応ができ、委員一人一人の亥鼻祭に対する熱い思いを強く感じました。また、昨年度から増えた企画が3つ、部活によるイベント企画が1つありました。初めてのことを始めることで企画者たちも苦戦することもあったようですが、昨年度よりも多くの方

に亥鼻祭に携わってもらえたことをとても嬉しく思います。今年度新しく発足した企画の責任者は、来年度も是非企画したいと亥鼻祭終了後に話していました。このように、主体的に亥鼻祭に携わる人が増えていくことは、まだまだ亥鼻祭が成長し続けることができる証だと思えます。当日は雨に見舞われてしまったものの、多くのお客様に足を運んでいただき、直接温かな声をかけていただきました。楽しみにしていた、素敵な文化祭だったと保護者の方や地域の方々にお声をかけていただけたことは、私たち委員の原動力に繋がっていききました。今後も、毎年11月に地域の人々や学生同士が学部の垣根を超えて交流することができる亥鼻祭が亥鼻の地を色づけていくことでしょう。

最後になりましたが、今年度も亥鼻祭の開催に向けて温かくご支援くださった全ての方々へ深く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後とも支援ならびにご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

るのほな同窓会支援

「ホームカミング・パーティー2018」が開催されました

三澤 園子 (平成11年卒)
 吉村 健佑 (平成19年卒)
 有賀 翔太 (医学部6年)

2016・2017年に引き続き、2018年11月4日(日)午後3時より、亥鼻祭開催当日と合わせて「ホームカミング・パーティー2018」をあのほな同窓会館にて開催しました。あいにくの天気にも関わらず白澤浩先生(昭57)からの趣旨説明に続き、徳久剛史学長(昭48)、済陽高穂(昭49)のほな同窓会長(昭45)、吉原俊雄先生(昭53)はじめ、各地同窓会からもご挨拶を頂き、同窓会員、医学部学生など世代を超えて延べ80名を超える参加者を得て写真の通り大変賑わい、盛会となりました。

シヨート・プレゼンテーションとして、亥鼻祭実行委員長の福島剛さん(医学部3年)、心肺蘇生法を学び実践する学内サークル(CITAT)の代表である前田健二朗さん(医学部5年)より勢いのある活動報告と支援への謝意表明が



ありました。また吉村より「千葉県の医療と医師就学資金制度の現状」、三澤園

子先生より千葉県るのほな会が支援している「次世代人材育成勉強会・育星塾」の活動成果の報告がありました。懐かしい仲間との楽しいひと時のお陰で、明日からまた頑張る気力が湧いてきました。開催の経費は千葉大学のほな同窓会、千葉県るのほな会、東京るのほな会から支援を頂き、さらに同窓生からの直接のご寄付や多

課外活動団体だより

剣道部

医学部5年 藤井達也

くのお酒の差し入れも頂いて開催することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

また開催に当たりご尽力頂いた白澤先生、当日のスタッフをしてくださった寺谷俊康先生(平16)、有川俊輔先生(平16)、お手伝い頂いた9名の現役学生には改めて感謝いたします。

近年、若手の同窓会員を中心に、同年代の若手卒業生や現役の医学生がゐるはな同窓会をより身近に感じられる企画を立案・実行してきました。本企画もその中の一つとして重要と考えられています。3回目を迎えた本企画が定着し、毎年同窓生が亥鼻祭とホームカミング・パーティーを楽しみにし、家族連れであっても、一人であっても安心して参加できるイベントにできたらと期待しています。亥鼻祭が16回目の開催を迎えて定着してきている様に、本企画も長く続けることを第一に、徐々に参加者が増えてくれることが楽しみです。来年以降も引き続き亥鼻祭と同時に開催しますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

千葉大学医薬看護学部剣道部は、医学部11名、薬学部3名、看護学部5名、植草学園大学から1名の計20名が集まり、週に3回亥鼻キャンパスにて活動をしています。一時は、部員数が6学年、3学部で8名まで減少したこともありましたが、ここ数年で着実に増加し、現在に至っています。部員数が少ない時期は、運営などに大変さもあつたと思いますが、卒業された先輩方の支えがあつたからこそ現在の部活があると思つています。この勢いをさらに高め、常に30名以上の部員が集つていたというかつての剣道部を再興できればと考える次第です。

現在の部活の稽古内容は、主将が考え、指揮を執り行っています。内容としては剣道の基本となる技の練習や応用技、また実践を意識した稽古など様々です。中でも、地稽古という下級生が先生や上級生に練習相手となつてもらつ実践

的な稽古があります。稽古が終わつた後には先生・上級生から下級生にアドバイスをする時間があり、各々技術や戦術の向上を目指しています。また、千葉県剣道連盟会長の川畑富保先生に稽古をつけていただく機会もある恵まれた環境にあり、経験者、初心者問わず剣道に励んでいます。OBやOGの先生方・先輩方との交流が深いことも本部活の特徴であり、剣道に限らず貴重なアドバイスをいただくことができます。部旗に掲げている「活人剣」、道場に掲げている「剣学一如」を理念とし、試合で勝つことはもちろんですが、剣道を通じてよき医療者となれるよう日々稽古に臨んでおります。また、他大学との交流も伝統的に行われており、年に一度の三大学戦(新潟大学・金沢大学)、年に二度の医科歯科大学との交流戦では、剣を交えて親睦を深めています。

今後の部活の目標としては、今以上に部員数を増やすことや、各々が段位を取ることができるなどがあります。部員の共通の目標は、主な大会で予選トーナメントを突破して決勝トーナメントに進むことです。先生・先輩方には今後ともご指導をお願い申し上げます。

ともに、道場を使わせていただいている大学にもこの場をお借りして感謝を申し上げます。今後も剣道部を宜しくお願いいたします。

- 役員
- 主将：樋渡 俊介
- 主務：鈴木 啓仁
- 会計：矢澤 智弘



第61回春季関東医歯薬獣医科大学剣道大会にて

ご寄附のお願いと寄附金の税額控除のお知らせ

猪之鼻奨学会は、大正4年(1915年)に創立されて以来、多くの方々からの善意の寄附金により奨学事業を実施してきております。平成24年4月1日「公益財団法人」として、新たにスタートした猪之鼻奨学会は、「定款」に謳いますよう、医学及び薬学の研究を奨励することを目的として、研究業績の優秀な者に研究費の補助、そして学資の欠乏を告げた学生に学資の貸与を行ないます。これらの事業を遂行するために、どうか皆さまのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

一口5,000円ですが、ご都合により何口でも結構です。ご寄附にご賛同いただける方は下記口座にお振込みください。なお、「特定公益増進法人化にともなう寄附金の税額控除」に関しては、公益財団法人へ移行したことにより、本会が税制上の優遇措置の対象となる特定公益増進法人となりました。従って、個人によるご寄附の場合、所得の40%を上限として、ご寄附金額から2千円を差し引いた金額が、その年の課税所得から控除されます。法人によるご寄附の場合、一般の寄附金とは別枠で、特別損金算入限度額まで、損金の額に算入することが認められます。

今後とも、皆様方の一層のご指導ご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

公益財団法人猪之鼻奨学会 理事・評議員一同

振込口座
 ゆうちょ銀行
 口座番号 00180-3-59844
 口座名 公益財団法人猪之鼻奨学会
 (お問い合わせ先)
 Tel & Fax 043-226-2059
 E-mail:ishougakukai@chiba-u.jp

スキー部

医学部3年 翁 悠介

千葉大学医学部スキー部では、現在医学部18名、薬学部18名(院生含む)、看護学部3名の計39名の部員が在籍し、学部の垣根を越えて和気あいあいと活動しています。千葉大学では夏にシーズンを迎える部活が多い一方、私たちのスキー部は冬にシーズンを迎えるため、ほかの部活とは異なる特徴が多くあります。この場を借りましてスキー部の活動について簡単にご紹介させていただきますと思います。

私たちは普段、大学近くの青葉の森公園でランニングや筋トレといったトレーニングを通じて体力づくりをしています。シーズンに入ると、ほぼ毎週末に車でスキー場へ向かい、合宿という形で活動をします。私たちは競技スキーに取り組んでおり、これはコース上にセットされた旗門を通過し滑走にかかったタイムを競うものです。主に年に2回の大会に向けて、部員とともに時に競い合い、励ましあいながら練習をしています。部員によっては、年間の滑走日数が50日程度に達



レースにて滑走する部員

するほか、夏であつても雪が残る山に毎日登り、リフトのない雪渓で2週間近くトレーニングをしています。トレーニングの成果もあつて、昨年末の10以上の医療系大学が出場する十大戦では、男子選手が3位、新人戦でも一年生が2位を獲得しました。また女子選手も、昨年の東医体で第1シードと呼ばれる高順位のパフォーマンスを出すなど、各部員が各大会で好成績を残せる部活へと進歩してきました。今後も、部員と切磋琢磨しながら活動に励んでまいります。

私たちの部活は、ご卒業

された多くのOBの先生方の支えもあり来年で創部60周年を迎えます。私たちの部活の良いところは男女全員の部員が大会に出ることができ、自身の技術向上に邁進できる点です。また同時に、技術の優劣などに関係なく、学士入学の方を含め様々な学部の部員が居心地良く過ごせる今の部の雰囲気をお大切にしていきたいと考えています。今後もスキー部の良さを残しつつ、ますますの部の発展に向けて力を注いでまいります。

- 役員名**
- 将...翁 悠介
 - 薬学主将...柳 洋輝
 - 計...大澤 秋美
 - 吉田 直樹
 - 安藤遼太郎
 - 竹内 遼弥

るのほな音楽部

医学部4年 山 崎 美智子

千葉大学のほな音楽部は、亥鼻キャンパスの医学部・薬学部・看護学部の学生を中心としたオーケストラの部活です。

当団体は「病院でボランティア演奏をしたい」という思いから始まり、2018年で結成30周年になります。当初は少数であった部員数も年々増加し、現在は100名を超えるようになりました。元々楽器を演奏したことのある部員も大学から楽器を始めた部員もお互いに切磋琢磨しながら、一年を通して演奏活動に励んでおります。

12月の千葉大学医学部附属病院でのクリスマスコンサート、2月の千葉市立青葉病院でのスプリングコンサートでは、クラシックの他にも映画音楽や季節にあつた曲などの耳馴染みのある曲を演奏し、好評をいただいております。部員にとりましても、患者さんが自分たちの演奏を聴いてくださる様子は大変励みになり、将来関わる医療現場で演奏できることを貴重な経験だと考えています。

9月の定期演奏会では交響曲などの大曲を演奏し、

部員にとつて一年の成長を実感する場となっております。2018年9月に行われた第16回定期演奏会では多くの方に足をお運びいただきました。この他にも、大学祭でのアンサンブル演奏、学会や式典での依頼演奏、附属病院でのサロンコンサートなど、活動は多岐に渡っています。

また、当部活は医療系大学のオーケストラが集まった全日本医科学生オーケストラ連盟に所属しており、毎年夏に開催される全日本医科学生オーケストラフェスティバル(通称「夏オケ」)を始め、様々な医科学生オーケストラにも積極的に参加しています。これらに参加する全国の医療系学生の仲間と、本番という一つの目標に向けて練習することで交流を深めています。

以上のように、部員は学業との両立を工夫しながら楽しく真剣に音楽と向き合っています。音楽を通して得た仲間や経験は、一生の宝になると信じています。日頃より応援し支えてくださる皆様はこの場をお借り



第16回定期演奏会にて。リハーサルを終え本番前に集合写真を撮るのが恒例となっています。

して感謝申し上げます。今後とも私達を温かく見守っていただけますと幸いです。

- 役員名**
- 部長...山崎美智子
 - 副部長...浦上 尚也
 - 副部長...込山 大智

第61回 東日本医科学学生総合体育大会

優勝 サッカー部

我々サッカー部は8月に新潟で開催された東医体で優勝し、その後9月に福井で開催された全医体でも優勝を飾ることができました。ご支援くださった皆様に感謝を申し上げますと共に、サッカー部一同、より精進して参りますのでよろしくお願い致します。



優勝 ヨット部

ヨット部は東医体の主管校も務めた今年度、6年ぶりの優勝を掴み取ることが出来ました。例年とは異なり大会の運営も行う中で、部員同士で支え合い、東医体本番には数多くのOBの先生方が応援に来て下さったお陰で、この結果を勝ち取ることが出来ました。



第61回 東日本医科学学生総合体育大会 夏期競技結果

	優勝	準優勝	第3位	千葉大学医学部順位
硬式野球	信州大学	東京医科大学	獨協医科大学	第4位
硬式テニス(男子)	福島県立医科大学	筑波大学	慶応義塾大学	2回戦敗退
硬式テニス(女子)	横浜市立大学	群馬大学	慶応義塾大学	1回戦敗退
ソフトテニス(男子)	秋田大学	信州大学	群馬大学	準決勝トーナメント初戦敗退
ソフトテニス(女子)	旭川医科大学	山梨大学	東京医科大学	予選リーグ4位
卓球(男子)	昭和大学	東北大学	東京慈恵会医科大学	予選3位
卓球(女子)	秋田大学	岩手医科大学	昭和大学	ベスト16
バレーボール(男子)	筑波大学	群馬大学	福島県立医科大学	ベスト16
バドミントン(男子)	旭川医科大学	筑波大学	信州大学・順天堂大学	ベスト8
バドミントン(女子)	秋田大学	旭川医科大学	群馬大学・筑波大学	1回戦敗退
サッカー	千葉大学	群馬大学	新潟大学	優勝
バスケットボール(男子)	群馬大学	慶応義塾大学	秋田大学	2回戦敗退
バスケットボール(女子)	秋田大学	筑波大学	昭和大学	ベスト8
剣道	自治医科大学	北海道大学・福島県立医科大学		(男子) 予選リーグ4位 (女子) 予選リーグ3位
弓道	東京医科歯科大学	秋田大学	信州大学	入賞ならず
空手(男子)	山形大学・慶応義塾大学		札幌医科大学	1回戦敗退
水泳(男子)	日本医科大学	慶応義塾大学	東北大学	入賞ならず
水泳(女子)	慶応義塾大学	東京医科大学	自治医科大学	入賞ならず
ヨット	千葉大学	順天堂大学	慶応義塾大学	優勝
ゴルフ(男子)	筑波大学	慶応義塾大学	群馬大学	第23位
ゴルフ(女子)	慶応義塾大学	獨協医科大学	筑波大学	第4位

第61回 東日本医科学学生総合体育大会 夏期競技結果総合ポイント

第1位	第2位	第3位	千葉大学医学部順位
筑波大学	群馬大学・慶応義塾大学		13位/38大学

個人成績

- 陸上 (男子) 1500m 6位入賞: 福原一将
- ソフトテニス (男子) ベスト16: 岡野優一・草野雅己ペア (女子) ベスト8: 小澤優・佐藤奈緒、ベスト32: 高橋陽香・田尻優希
- 卓球 (男子) シングルスベスト32: 鈴木康広、高松圭吾 ダブルスベスト16: 鈴木康広・莊司明宏、ベスト32: 藤谷誠・並木暢大 (女子) ダブルスベスト32: 登内紗英子・田中彩華、佐藤玲紋・政木理沙、武久佳央・仲村理佳子
- バドミントン (男子) ベスト32: 石倉農規・市川天祐 (女子) シングルスベスト32: 平高明音、ダブルスベスト16: 平高・大山
- 水泳 (男子) 400m自由形第7位: 箕輪真人、200m個人メドレー第6位: 渡邊悠斗、200mバタフライ第7位: 横山雄大、100mバタフライ第5位: 横山雄大
- ヨット 優勝: JPN4581林亮佑・瑞夕稀子ペア、3位: JPN4486渡将登・小関遥/逢坂太郎ペア、10位: JPN4413高橋誠志郎・鶴梶真衣ペア、和田七海・渡邊怜ペア
- ゴルフ (女子) 10位: 村瀬希子、15位: 岩田笙子、22位: 山本祐実、41位: 石川茉莉

会員から

のほな同窓会支援

第43回ゐのほな美術展開催

橋本英明(昭45)



後列：菅ヶ谷純弘、橋本英明、島田哲男
前列：石井夫人、石井邦夫、野口眞利、宮下久夫

第43回ゐのほな美術展(9月24日〜9月30日)は、GINZA・SIX前の銀座ギャラリー向日葵で無事終了致しました。改めて同窓の皆様のご協力に感謝いたします。
ゴッホと決別したゴーギャンは、主にタヒチで絵画制作をしておりますが時々パリに戻っていたそうです。発明や発見といった学術的な「セレンディピティ」が生まれるにも、環境は大変に重要です。京大のノーベル賞受賞者が多いのは、

環境のせいだと京大関係者が言っておりました。研究費なども潤沢なものでしょうが、立地にも恵まれているからだとの事。「研究に向いた環境にありながら、少し行くと繁華街が広がっており、その刺激が大事なのだと思う」というのです。栄町で良いのか？不祥事が続くのは、社会性に乏しいからではないか。大志が育たないのは、人事交流が少ないからではないのか？(スタッフにも外国人の登用を進めた方が……)

銀座に出かけてみて下さい。他にも丸の内、湾岸地域、渋谷など、東京の変貌ぶりは東京にいても驚くばかり。私達は知らない内に時代に遅れてしまっています。視覚的に観るとその事が容易に判ります。「ボーっと、生きて来てしまった」凡夫は改めて、後輩の諸君に吉田松陰の言葉を送ります。「夢を持たぬ者には、成功もない」野口眞利(昭40)、島田哲男(昭41)、橋本英明(昭45)

第43回ゐのほな美術展 出品作品

Table with 3 columns: Name, Graduation Year, and Work Title. Lists artists like 伊藤進, 石井邦夫, 河村孝子, etc.

68歳開業医の医療4.0

篠宮正樹(昭50)



8月25日土曜日の午後千葉大学病院3階のガレージで開かれた「医療4.0 FESイン千葉」2030年に向けて加速する医療イノベーション」という講演会に参加。山本修一病院長の最初の挨拶で「私より年上の西船内科の篠宮正樹先生が参加されている」と紹介されました。講演会は大変刺激になり、元気が増えました。
本年6月25日に日経メディカル社から発行された「医療4.0 4次産業革命時代の医療」未来を描く30人の医師による2030年への展望」と題する本に登場する30人の医師のうち7人が登場。これは千葉大学の関係する若手の先生方で日本の

医療の中心となって進んでいる医師たち。千葉大学のみならず東京の大学の医学生も多数参加。本の帯には「AI、IoT、ビッグデータ、ロボティクス、ブロックチェーン、AR、VR、MR」などの言葉。
第一部は千葉大学病院経営管理研究センター特任講師精神科医・吉村健佑先生の司会。この本の編集者である加藤弘晃先生「医療4.0 4次産業革命時代の医療」、消化器内科医・石井洋介氏「コミュニケーションデザインで医療は変わるのか」、循環器内科医・小川晋平氏「現場の常識や価値観を覆すソリューションを提供したい」、救急医・沖山翔氏「医療AIとインフルエンザ診断」。
第二部は千葉大学総合診療部・鋪野紀好先生の司会で、産婦人科医・園田正樹氏「病児保育をアップデートし、日本の子育てを変えろ」、整形外科医・中山俊氏「医師同士のつながりで作る医療4.0」、血液腫瘍内科・明星智洋氏「がんに対するプレジジョンメディスンの実践」(明星医師と篠宮はその昔若き研修医の結婚式での主賓同士でした)。
精神科医・吉村健佑氏「公開データを基に専門家と国

民と行政が議論するのが当たり前の社会に」。指定発言として、千葉大卒、ハーバード大公衆衛生大学院終了の厚生労働省医系技官・松本晴樹氏「ハーバードで感じたヘルスITの未来と基礎固めの重要性」。

登壇はなかったのですが、この本に掲載されている小児科医・白岡亮平氏「診療所は教育拠点に変化し、医師に高い人間力が求められる」の主張にも頷きました。増加する医療情報や判断こそAIに任せられる、そして言葉をはじめとしてAIの出した結果を人の心に受け入れてもらい行動変容を起こしうる医師の人間力こそが2030年に求められるものだと。

このように多くは起業している医師であったり、政府機関に属するあるいは属していた経験があり、医療をさらに推進しようとする医師たちの熱気に満ちた会でした。

翻って、68歳の開業医の私は、小学校に出かけて子ども達に「あなた達は素晴らしい身体と心を持って生まれてきた」という講話をして来ました。すると「生まれてきてよかったです。この身体を大切にします」というメッセージが多数の子ど

も達から寄せられていきます。これを進めて、千葉日報にNPO小象の会として連載記事を書き始めました。

いま私が出来たことは、中高年の市民にこの先生達のメッセージを届けることだと思えます。老化に打ち

欧州医学史巡り — イスタンブール —

杉田克生 (昭54)

イスタンブールを訪れる誰もが見学するトプカプ宮殿からボスボラス海峡を眺めると、アジア側に白い建物が見える。ナイチンゲールがクリミア戦争で活躍したとされる旧スクタリ野戦病院跡である。両側に塔が見え、その左側にナイチンゲール博物館がある(写真)。

現在跡地はトルコの軍団司令部が置かれているため、司令部に予め許可を取らないと入れない。警備は非常に厳重で、検問の入場門から構内へは司令部のマイクロボスで移動する。カメラや携帯電話の携行は禁止のため、敷地内では残念ながら写真はとれない。エントランスを抜け博物館に入ると、4階にナイチンゲールが居間として使用した部屋があり、執務に

勝つためにIT技術を駆使し、どんどん蓄積されていく医学知識についていくにもIT技術が使えます。でも結局は人と人のつながりが日常診療で大切であることは永久に変わらないと大いに安心しました。

使った机などが置かれている。他に彼女直筆の手紙や関連する写真なども展示さ

れている。当時の病院は、黒海からの船で負傷兵が送られてきたが、英国兵に限られていたことは知られていない。病院は3階からなる巨大な長方形の建物で、閲兵場にもなっていた中庭を取り囲んでいた。各階に多くの負傷兵が収容されていたが、長方形の建物の四辺をまわると1つの階で732メートルにもなる。ナイチンゲールらが派遣された頃(1854年11月初め)には負傷兵の搬送が増加し、3週間で患者数は2300人にもなっ



旧スクタリ病院、左の塔にナイチンゲール博物館がある

た。病院への必要物資は届いておらず、洗面器やタオル、石鹸などもなかったようである。病院環境は劣悪で、彼女の赴任の4ヵ月間換気のできる場所はなかった。当時の状況は案内担当官の表現では、「chaos sanitation」とのことである。ちなみに、ギリシャ語の「カオス」とは天地創造以前の混沌(こんとん)とした状態あるいは事象を意味し、そのような「sanitation」(公衆衛生、衛生設備)に対して彼女は衛生管理や物資調達に努めた。医学の神アスクレピオスの娘が衛生の語源であるヒュ

ゲイア (Hygieia) である。クリミア戦争当時ヒュゲイアを体現する人物としてナイチンゲールが存在したのである。なおイスタンブールでは、Berberetが勤務したイスタンブール大学皮膚科学教室訪問も勧めたい。彼は初代の皮膚科長として15年間勤めた。外来奥には皮膚科長室があり、筆者が訪問した際も使用されていた。Berberet病はシルクロードに沿った地域に発症していることから、シルクロード病とも言われている。「同病相哀れむ」トルコはきわめて親日的な国である。

投稿のご案内

- 近況報告、随筆 (エッセイ)、趣味、現代の医療問題についてなどの内容で奮ってご投稿ください。
- 原稿は1,400字程度で事務局まで!
- 会報の発行日は1月、5月および9月です。

るのほな同窓会事務局
e-mail : info@inohana.jp

■在宅医療サービス ■医療用機器事業 ■医療用ガス配管設備 ■医療用ガス



人とともに呼吸する。

KOIKE MEDICAL

株式会社 小池メディカル www.koike-medical.co.jp/

〒132-0031 東京都江戸川区松島1-24-8 TEL:03(5662)6605

特別寄稿

タイムスリップちば 収録

「日本官立医科大学成立史考」

—千葉医科大学

(現千葉大学医学部・薬学部)の

生い立ちと学者たちの群像—

平野 綏



平野 綏 プロフィール
1937年 千葉県に生まれる
東京大学大学院卒業 農学博士 (東京大学)
茨城大学教授、同学生部長、副学長
宇都宮大学監事
茨城県農政審議委員
日本農業史学会会長等を歴任
専門分野
近代日本経済史 (主として農業分野)
農政学、農業経済学等

この度、千葉市の歴史研究グループの依頼により「日本官立医科大学成立史考」—千葉医科大学(現千葉大学医学部・薬学部)の生い立ちと学者達の群像—を上梓いたしました。

本稿は、明治から大正、昭和へと移り変わる千葉市の歴史と文化をつづった大著「タイムスリップちば」(A4版390頁)の約100頁を構成する長編です。又、本稿は、当初、筆者の祖父にあたる、元千葉医科大学薬学専門部初代主任平野一貫教授の生涯を書く依頼に始まっています。平野教授は

両教授と共に千葉医学専門学校(千葉医専)の看板の一人だったのです。しかし、たとえ身内であっても、平野一貫という薬学者を学術的、客観的に評価するためには、少くとも明治以降の医学、薬学教育史についての基礎知識が必要で、私は、私は日本経済史(主として農業分野)を専門とし、この分野については全くの無知です。そこで、全てをゼロから勉強し、日本の近代以降の医学、薬学教育史全体についての座標を作る作業と取り組むことになりました。その結果、三年がかりでようやく書きあがった成果は、表題のように大きな内容となり、400字原稿用紙で約400枚という一冊の著書に近い大作になってしまったのです。

本稿の執筆で特に気を配ったことは、これまでに出版されている記念誌、あるいは郷土の歴史に定説化されている過去の記述や資料を原資料に戻って再吟味することでした。千葉の歴史、あるいは千葉大学の歴史という限定された地域についての記述や資料を改めて広く全国的な座標上に置き直して見ると、そこにはこれまでの定説的理解の誤りや

不充分さ、あるいは新発見の数々が浮び上り、驚きと興奮を抑え切れず、この研究にのめり込むことになりました。では、その粗筋をざっと紹介してみよう。千葉大学医学部の原初的な出発点、資産家有志の寄付によって作られた「千葉町共立病院」であることはよく知られています。しかし、このささやかな寄付病院が何故に後の千葉医科大学の源流なのか、又、その本質が何だったのかを説明した書物はありませぬ。実は、この共立病院こそが、明治新政府が取組んだ、日本医療近代化プロジェクトの出発点であり、一里塚だったのです。共立とは資金を出し合ったの意で、同じ名称の寄付病院は宮城県、新潟県にも登場し、名称は違っても同様の病院が各県毎に設置されていったのです。明治初期は史上最大の反政府民衆蜂起の時代であり、千葉町でも新築された県庁舎が放火で全焼しています。資産家達は恐怖に夜も寝られず、頼りは警察と軍隊でしたから、お上に寄付の水を向けられたら否も応も無く、自ら願ひ出る形で差出したのです。同様の手法は、明治

5年の学制施行による小学校の創設時にもとられていきます。明治新政府は未だ財政基盤が未確立で、小学校建設費を民費の名目で村民・町民に割振り、足りない分は資産家に寄付をさせたのです。まるまる全てを寄付させた例も少く無いことから、当初の小学校の多くは私立なのか、公立なのか判断としない存在となっていました。そこで、明治9年に明治政府は一方的に小学校の公立宣言を行い、全てお上の物であることを明確にさせたのです。明治9年に千葉町共立病院は「公立千葉病院」と改称されますが、これも小学校同様の全国的な展開として進められた政策の一端でありました。

明治政府は学制に続き、7年に「医制」を公布し、医師と薬舗(薬局)の国家免許制度の樹立を目指しました。そのため、千葉県だけでは無く、各府県の公立病院は、漢方に替る近代医学を身につけた医師の養成をその双肩に担う存在として一斉に医学教育機関へと姿を変えていくことになりました。一方、東京では、維新戦争の軍陣病院を源流とする西洋医学の教育機関が東京

明治、大正期を代表する生薬学者の一人で、日本の香粧品化学研究のパイオニアでもありました。日本最初の化学合成香水「素馨香」、昭和の高度成長期に至るまで一世を風靡した「ミツワ石鹼」、明治期にすでに世界市場を誇っていた生薬「仁丹」、今日に生きる菓草入り人造ブランド「電気ブラン」など、平野教授の指導下に開発された新商品の多くはスーパー・ヒット商品になりました。そのようなこともあって、平野教授は、医学科の三輪徳寛(外科)、井上善次郎(内科)

両教授と共に千葉医学専門学校(千葉医専)の看板の一人だったのです。しかし、たとえ身内であっても、平野一貫という薬学者を学術的、客観的に評価するためには、少くとも明治以降の医学、薬学教育史についての基礎知識が必要で、私は、私は日本経済史(主として農業分野)を専門とし、この分野については全くの無知です。そこで、全てをゼロから勉強し、日本の近代以降の医学、薬学教育史全体についての座標を作る作業と取り組むことになりました。その結果、三年がかりでようやく書きあがった成果は、表題のように大きな内容となり、400字原稿用紙で約400枚という一冊の著書に近い大作になってしまったのです。

本稿の執筆で特に気を配ったことは、これまでに出版されている記念誌、あるいは郷土の歴史に定説化されている過去の記述や資料を原資料に戻って再吟味することでした。千葉の歴史、あるいは千葉大学の歴史という限定された地域についての記述や資料を改めて広く全国的な座標上に置き直して見ると、そこにはこれまでの定説的理解の誤りや

不充分さ、あるいは新発見の数々が浮び上り、驚きと興奮を抑え切れず、この研究にのめり込むことになりました。では、その粗筋をざっと紹介してみよう。千葉大学医学部の原初的な出発点、資産家有志の寄付によって作られた「千葉町共立病院」であることはよく知られています。しかし、このささやかな寄付病院が何故に後の千葉医科大学の源流なのか、又、その本質が何だったのかを説明した書物はありませぬ。実は、この共立病院こそが、明治新政府が取組んだ、日本医療近代化プロジェクトの出発点であり、一里塚だったのです。共立とは資金を出し合ったの意で、同じ名称の寄付病院は宮城県、新潟県にも登場し、名称は違っても同様の病院が各県毎に設置されていったのです。明治初期は史上最大の反政府民衆蜂起の時代であり、千葉町でも新築された県庁舎が放火で全焼しています。資産家達は恐怖に夜も寝られず、頼りは警察と軍隊でしたから、お上に寄付の水を向けられたら否も応も無く、自ら願ひ出る形で差出したのです。同様の手法は、明治

5年の学制施行による小学校の創設時にもとられていきます。明治新政府は未だ財政基盤が未確立で、小学校建設費を民費の名目で村民・町民に割振り、足りない分は資産家に寄付をさせたのです。まるまる全てを寄付させた例も少く無いことから、当初の小学校の多くは私立なのか、公立なのか判断としない存在となっていました。そこで、明治9年に明治政府は一方的に小学校の公立宣言を行い、全てお上の物であることを明確にさせたのです。明治9年に千葉町共立病院は「公立千葉病院」と改称されますが、これも小学校同様の全国的な展開として進められた政策の一端でありました。

明治政府は学制に続き、7年に「医制」を公布し、医師と薬舗(薬局)の国家免許制度の樹立を目指しました。そのため、千葉県だけでは無く、各府県の公立病院は、漢方に替る近代医学を身につけた医師の養成をその双肩に担う存在として一斉に医学教育機関へと姿を変えていくことになりました。一方、東京では、維新戦争の軍陣病院を源流とする西洋医学の教育機関が東京

の漢方を中心とする伝統医がおり、議会は医者はいくらかでもいるではないか、近代医学は東京大学で学ばせれば充分という認識が大勢を占めていたのです。かくして、明治政府による医学、医療近代化のプロジェクトは、地方的管理から政府直接管理への転換が焦眉の課題となっていたのです。政府は、23年に憲法発布と国会開設を見据え、各省に優れた官僚組織の構築することを急務としていました。そのため、東京に帝国大学が設置され、これまでの尋常中学校と帝国大学の間をつなぐ高等教育機関が必要となりました。それが、全国を5つの学区に分けて、一校ずつ設置された高等中学校(後に高等専門学校と改称)です。高等専門学校は帝国大学への予備教育を行う本科と共に、当初は大学に準ずる専門教育学部として法、理、農、商、医等の分科を設ける計画でしたが、財政上の問題もあり、結局、医学部のみが付置され、例外的に第三高等中学校に法と医の学部が設けられることになりました。千葉町が属する第一学区は、現在の関東、東海、甲信地区計11府県で、本科

（本校）はむろん東京に設置されました。では、第一高等中学校の医学部が千葉町に設けられたのはいかなる事情によるものだったのでしょうか。当時の千葉町は県都とは言うものの戸数800にも満たない一農漁村だったのです。これまでの郷土史、千葉大学記念誌は、そろって愛知県名古屋区と激烈な誘致競争の結果、ついに獲得したのだと伝えていきます。しかし、それは本当でしょうか。結論から言いますと、医学部の設置を熱望していた県など全国どこにも存在しなかったのです。なぜなら、高等中学校医学部は官立として国の指導下にあっても、その運営費は地方負担であり、しかも設置費は5万円という巨額の創設費用を負担しなければならなかったからです。第一学区に残っ

ていた母体となるべき医学部は、千葉と愛知の2校のみでしたがどちらの議会も指名のがれに必死だったのです。しかし、政府は当初から東京に近い千葉町設置を予定しており、県議会もついに刀折れ、矢尽きて受け入れを決めたというのが実態でした。問題はその後です。明治21年4月、第一高等中学校医学部は第一回生100名の学生募集を行いました。結果は、志願者がわずかに60名、しかも尋常中学校卒の応募者は一名も無かったのです。止むを得ず再募集をかけ、ようやく55名を入学させますが、年齢はばらばらで、成績不良で多数の除籍者を出す始末でした。中卒者はこそって本科の受験に集っていたのです。明治中期における医師は、基本的に高学歴志向者の目指す職業では無く、社

会的に向上意欲のある非学歴層が目指す職業の一つでした。医師志望者は学資の高い4年制の公立医学部よりも、医師免許に合格するための、臨床講義も実験設備も無い予備校の医学部に群がり集まっていたのです。彼の野口英世博士もその一人でした。医療の近代化、換言するならば洋方医数による漢方医数の凌駕という明治政府の目指す喫緊の課題は、このような予備校出身者たちが、公立、官立医学部卒業生よりもはるかに大きな部分を占めて進められていたのです。近代化を急ぐためとは言え、医学の進歩を共に乗り越えなければならぬ厳しい歴史プロセスでありました。

千葉町の外、宮城、岡山、金沢、長崎の各高等中学校医学部の学生募集がどこも千葉と同様の状況にあったことは言うまでもありません。日清戦争を経て、およそ30年代の中ごろになると、尋常中学校卒業生の顕著な増加もあって、医学部の学生募集難も徐々に解消されて行きます。又、35年までに設置された7府県の高専学校（27年改称）は、一層帝国大学予科としての機能が明確化されていきます。そのため、高等学校教育の中で大学予科との制度上、教育上の関連性も展望も無い医学部は、高等学校に附属する意味を失うことになりました。かくして、日本の医学教育は医学専門学校（通称医専）制度への新たな門出を迎えることになったのです。

さて、明治政府が日本の医療、医学教育の近代化に着手する19世紀の後半は、パスツール等による細菌学の勃興により、世界の医学全体の急激な発展期にあたりました。したがって、日本の医学教育は世界の医学教育水準との大きなギャップを抱えながら進められていたのです。千葉医専では医学科の教員達に細菌学を教えられる教員がいないため、博識で鳴る薬学科の平野教授が明治42年まで担当していたのはその一例です。政府は、財政上の理由から医専はあくまでも教育機関と規定し、研究は期待していなかったのです。教員数や講座数も医学の進歩には到底追いつけるものではありませんでした。そのため、医学科の不満の矛先は、医学科の予算の中で、あたかも軒先を借りるように存在していた薬学科に向けられるようになります。薬学科廃止の先陣をきったのは岡山で、仙台がこれに続きます。最後まで薬学科を残した千葉、金沢、長崎でも同様の葛藤があったことに疑う余地はありません。ただし、千葉では、長尾校長が薬学教育に理解があったこと、平野教授が元々東京大学医学科予科から薬学科に転じた人であったこともあり、医・薬両学科の関係は最後まで良好であったと伝えられています。

教育現場のこのような動向を、政府文部省も受入れ、帝国大学の増設と医専の医大昇格案の中では、財政上の理由から薬学教育を半ば切捨てた大胆な方針が打出されて行きます。第二次大戦終戦迄に設置されていた9都市の内地帝国大学医学部で薬学科を設けていたのは東京と京都のみであったのはそのためです。京都帝大医学部の薬学科も昭和16年によりやく設置されたものでした。又、医学教育面では飛躍的に拡大された官立医科大学には薬学科を設置せず、全面廃止説がささやかれる中で、千葉、金沢、長崎の3医大にのみならず2講座の薬学専門部が設置されることになりました。軍隊、病院、個人薬局、製薬など薬剤師の需要は高まる一方でしたが、その役割は私立薬専と熊本、富山に設けられた官立薬専が補っていくことになりました。

このように、医学と薬学の教育が相携えて進められていない日本の伝統的な医学教育のあり方は、戦後にG・H・Qの指導下に行なわれた教育改革の中で厳し指摘を受け、改善を求められたのです。その結果、昭和24年、薬学教育の母体を残していた千葉、金沢、長崎の3薬学専門部と熊本、富山の官立薬専が一斉に新制大学の薬学部昇格することになりました。逆に、薬学教育の母体を持っていなかった各地の旧帝大医学部は、先ず薬学科作りの作業に着手しなければならなかったのです。すでに薬学科のある東京大学、京



タイムスリップ ちば
 定価 10,000円 (税抜)
 タイムスリップちば編集委員会
 発行 地域の歴史文化研究会
 事務局
 〒260-0013
 千葉市中央区中央3-15-12
 刃物フルカワ ☎043-222-3856

都大学の薬学部昇格が30年代にずれ込む理由は別の事情です。ここでは説明を省きます。以上が日本の医学教育の近代化過程を論じた本稿の粗筋です。本稿は、専門の研究者の批判にも耐え得るオリジナリティー、厳密性、実証性の保持を基本としています。一方、同時に一般の方々に読んでいただくことを目的として執筆されています。したがって、読者が退屈することの無いように興味深いエピソードを可能な限り豊富に脚注で紹介するように努めました。長編ですが楽しんでお読みいただけるよう願っています。最後に、本稿が収録されている「タイムスリップちば」は千葉町、千葉市の近代史を豊富な写真と絵図、地図等を使ってつづった出色の図書と評価されています。青春を大正、昭和期の千葉市で過ごされた方々にとってはともなつかしい書物と思います。又、本書は一般書店ルートでは販売されておりません。入手希望の方は地域の歴史文化研究会事務局（刃物フルカワ043-222-3856）までご連絡ください。

同窓会員著書の紹介

大岩 孝司(昭47)・鈴木 喜代子 著
緩和医療

がんの痛みは必ずとれる

—在宅緩和ケアの現場から—

中山書店 定価4000円(税別)

推薦 鈴木 信夫(昭47)



さくさく坂通り診療所をご存知でしょうか。がんの相談・自宅への訪問診療・訪問看護(緩和医療)を24時間365日提供している診療所です。すでに、オンライン会報の同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介において、紹介番組を掲載してあります(2011・11・14掲載)。また、オンライン会報のオンライン書庫における会員著書欄で、同著者らによる既刊、「その鎮静、ほんとうに必要ですか」を紹介する番組を掲載してあります(2014・12・4掲載)。

さて、本書は、著者が、

の根幹をなすものとして、緩和医療のあるべき提言をしております。したがって、全ての医療者が一読するに値します。

患者個人の今ある世界、さらには、人生という時空間にどのようにして寄り添うように努力したらよいのか。本書では、明快に、指針を示唆しています。例えば、STAS (Support Team Assessment Schedule) と名付けられる緩和ケアの評価ツールを示してあります。緩和医療医・精神腫瘍医のみならず全ての医療者に役立つツールといえます。本書を熟読することにより、認知症患者などの自ら語り添うべく、参照とすべき深

松永 正訓(昭62) 著

発達障害に生まれて

—自閉症児と母の17年—

中央公論新社 定価1600円(税別)



自閉症は、いわゆる発達障害の中に含まれる病気で、文部科学省によると、

淵へと巡るにも、至適な著書と言えます。時あたかも厚生労働省の研究班において、全国の病院における緩和医療の実態を調査するプロジェクトがなされるとのこと。その際には、本書が参照されることを願う次第です。

一方、著者らが以前より訴えている、患者の痛み対策では、米国の英文科学雑誌に、「パートナーに手を握ってもらうと、脳が同期して肉体的な痛みが和らぐ」との研究論文が掲載されたようです。本書がタイトルでも問うている「がんの痛みは必ずとれる」は、近い将来、生命科学のな解明がなされることを期待する次第です。

自閉症は次のように定義されます。

- ・他人との社会的関係の形成の困難さ
 - ・言葉の発達の遅れ
 - ・興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害
- 自閉症という言葉を知ら

ない人はいないでしょう。しかしこの定義を読んで、みなさんは自閉症の子どもの具体的なイメージが浮かび上がるでしょうか？

現在では自閉症は、米国の精神医学会の診断基準では「自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害」と言います。重度の知的障害を伴う子どもから、まったく知的な遅れがない子まで幅があるからです。

加しているほとんどどの専門医が認識しています。発達障害に対する保護者の関心は明らかに高まっていると言えます。

私は、知的障害を伴う自閉症児の具体的な生活をぜひ知ってみたいと思えました。この子たちは、寝たきりの障害児と異なり、動きが制限されないため外の世界へ出て行きます。社会との接点が多く、そこに多くの問題や支障が発生します。そしてほぼ確実に親よりも長く生きます。親亡きあと、知的障害児はどうやって生きていけばいいのでしょうか？親の悩みは深いはず。その生きづらさ、その不安は一体どのよ

ご住所・ご勤務先等に変更がございましたら当会にもご一報ください。

電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp

うなものなのでしょうか？
私は今回、知的遅れの有る自閉症の子を17年育てた母親に長時間、話を聞かせてもらいました。本書の中で、身近なようで案外知られていない「自閉症の世界」を明らかにし、障害を持つた子を受け入れる母親の心を描きました。この母子の17年間はともドラマティックで、本作は一気に読める作品になっていると私は思っています。

同窓のみならずも良かったらぜひ本書を手にとってみてください。「普通」ではない人生の中にも幸福はあるということがお分かりになると思います。



杉本晃一(平13)、黒澤寛史(東北大・平12) 監訳
PICUハンドブック
小児集中治療の最前線

テコム出版 定価3500円(税別)

オーストラリア、メルボルンのRoyal Children's Hospital (RCH) は南半球で最大規模の小児病院であり、その小児集中治療室(PICU)では最先端の治療が行われている。そこでのPICU治療指針に関してまとめたものが『Paediatric Intensive Care Guidelines』であり、英文でポケットサイズの小冊子として販売されている。RCHでは医師、看護師はこのPICUガイドラインを常時携帯し必要な時にページを開く。このPICUガイドラインの最新版(第4版)に掲載されている内容を翻訳し、心臓手術の記載を中心に増補を行い、さらに日本の医療現場でも活用できるように注釈を加え、構成を整えて編集されたのが本書である。欧

米豪の名の通る小児病院が、さらに最新の知見を含む充実した内容になっている。本書の原本は、発行元のオーストラリアはもとより、イギリス、カナダ、アメリカなどの英語圏、ヨーロッパやアジア圏などでも医療者に広く使用されている。オーストラリアと日本の医療事情は異なり、オーストラリアでは標準的に行われている小児人工心臓や小児心移植などの項目は、近い将来日本でもこれらの治療が広く普及することを期待し、あえてそのまま翻訳

日本の心臓手術を行う病院と大きく違う点は、1施設あたりの症例数の違いはもちろんであるが、確立されたPICUの管理体制にある。日本の病院ではそれぞれの施設独自のPICU管理マニュアルに基づいて心臓外科医が術後管理を行うことが多い。しかしながら、PICUの医師はあくまでプロフェッショナルな職業であり、過去から築き上げられた知識と経験のもと、さらに最新の知見に裏付けられた治療が施されるべきである。もちろん心臓手術の成績は、心臓外科医の技術、知識、経験によるところが大きいが、同様にPICUにおけるプロフェッショナルな管理に大きく依存する。特に非常に複雑な症例であればあるほど、PICUの管理の質が術後成績に大きな影響を及ぼす。このプロフェッショナルリズムが本書を貫く根幹である。

テレビ電話による、慢性疼痛の認知行動療法臨床試験にご参加下さい。

千葉大学では、考え方や行動を見直して改善する「認知行動療法」の慢性疼痛治療プログラム臨床研究を行っています。テレビ電話システムを使って、おうちでいながら疼痛治療をうけてみませんか？



- 《対象者》 次の条件を満たす方
 - ◆ 身体症状症(慢性疼痛)と診断され研究に同意できる
 - ◆ 18~75歳の方
 - ◆ 認知行動療法を理解可能で、自宅にインターネット環境があり遠隔治療が可能な方。
 - ◆ 電子メールが使える方。
 - 《募集期間》 2018年2月~2019年11月
 - 《募集人数》 介入群20名・通常治療群20名
 - 《費用》 金額についてはお問い合わせ下さい
- ※千葉大学病院には1回来ていただきます。

注意事項

- ◎ 精神障害、双極性障害、薬物依存などを併発しているなど状態によっては臨床試験に参加できません。
- ◎ 試験治療群と対照群にランダムに割り振って試験を行うこと、治療に入るまで16週間ほどお待ちいただく場合があることにご理解・ご協力をいただける方のみ試験にご参加いただくことができます。



研究代表者 千葉大学大学院医学研究院 認知行動生理学教授 清水 栄司

お問合せ Mail : info-chibacbt@chiba-u.jp

担当 千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学 田口佳代子

千葉大学病院 認知行動療法センター URL : www.m.chiba-u.ac.jp/class/rccmd/



詳細は同封のチラシをご覧ください。

が残り、よりエビデンスに基づいた、さらに最新の知見を含む充実した内容になっている。本書の原本は、発行元のオーストラリアはもとより、イギリス、カナダ、アメリカなどの英語圏、ヨーロッパやアジア圏などでも医療者に広く使用

されている。オーストラリアと日本の医療事情は異なり、オーストラリアでは標準的に行われている小児人工心臓や小児心移植などの項目は、近い将来日本でもこれらの治療が広く普及することを期待し、あえてそのまま翻訳

し掲載した。最新版の日本語訳をお届けすることで、日本の小児集中治療がさらにレベルアップし、多くの子どもたちとその家族が幸せになることを願っています。



小児の会 会報 第25号

るのな同窓会 への寄附
河野 春彦氏 一万円
ありがとうございました。

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



オンライン会報は、動画配信を旨とする会報です。これまで、医学部本館の姿の全容については、動画番組としての配信はしておりません。一方、紙媒体であるるのほな同窓会報においては、前号の編集後記で、幡野雅彦先生が、空き家となる予定と記しております。新設される医学系総合研究棟への移転にともなうものです。そこで、医学部本館についての画像を動画として記録し、その一部をオンライン会報で配信すべく準備中です。本案内では、すでに撮影した箇所の画像の一部を写真化したものも含めて、主として正面玄関とその周囲の写真を紹介します。歴史的建造物である医学部本館についてご記憶なりをたどり、次の面の下欄の説明で写真の場所をご確認ください。記録物としての動画作製にご理解の程、お願いする次第です。

オンライン会報 総合目次

*本ページの動画はmp4形式です。ご覧になれない場合は、mp4対応のプレーヤーをインストールしてください。

*古い動画コンテンツの中には僅かですが専用の再生ソフトが必要なものがあります。

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 病院紹介 • 求人・求職 • 同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介 • 生涯学習講座 • インタビュー • 国際交流 • 都道府県医師対策 | <ul style="list-style-type: none"> • オンライン書庫 • 同窓会 • クラス会・他大学等 • キャンパス便り • 福祉関連情報 • 「ほっとひといき」ちば通信（千葉日報） • 協賛企業からのお知らせ |
|--|--|

オンライン会報用
QRコード®



オンライン会報 総合索引

• 氏名

• 病院・医院・診療所

【医学部本館】



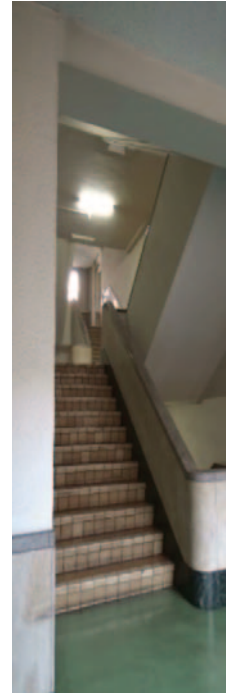
(2010年撮影)



D



E



F



G



H



- A** : 桜咲く頃の正面玄関風景 (2010年)
- B** : 正面玄関屋根を支える下部が細くなった支柱
- C** : 玄関吹き抜けホール
- D** : 1階から4階への階段
- E** : 吹き抜けホール天上のステンドグラス (135周年記念誌の表紙を飾っている)
- F** : ホール床面に埋め込まれたモザイク意匠

長田 紀春 (専17) 佐藤 進一 (昭18) 中村 豊 (昭22) 松浦 十四郎 (昭23) 木内 隆 (専25) 小林 哲郎 (専25) 渡辺 武夫 (専25) 今泉 厚一 (金沢医大・昭26) 阿部 辰一 (昭28) 鈴木 日出和 (昭29) 清宮 和男 (東邦大・昭31) 依田 勇二 (昭32) 横山 宏 (昭34) 米満 博 (群馬大・昭35) 伊藤 文雄 (昭37) 村田 三紗子 (昭37) 塚田 正男 (昭39) 林 泰 (昭45)

おくやみ

明けましておめでとございます。のほな同窓会員の皆様におかれましては、気持ちも新たに新年をお迎えのことと思います。
私がのほな同窓会報の編集委員に任命されて16年が経ちました。この間、鈴木信夫先生、瀧口正樹先生、白澤浩先生、清水栄司先生、三木隆司先生が編集委員長を務められ、のほな同窓会報の紙面は、ますます充実しました。B5版からA4版になった第109号(1995年8月発行)は6頁でしたが、現在は30-40頁になっています。また、第161号(2012年9月発行)からカラー印刷になりました。また、鈴木信夫先生とのほな同窓会職員の高木さんのご尽力により、2008年からオンライン会報が始まりました。同窓会員へのインタビュー、病院紹介、同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介、生涯学習講座などの記事、動画を配信しています。

編集後記

今回ののほな同窓会報は、同窓会長の年頭のご挨拶、教授就任・千葉市医師会長就任のご挨拶、受賞のご挨拶などにはじまり、各地ののほな会だより、クラス会だより、専門医研修制度をふくむ研修プログラムの紹介、同窓会員の寄稿からなります。集合写真にはお名前をフルネームで記載していますので、長らく会っていない同窓生の様子がわかると思えます。また、医学生が同窓として自覚と誇りをもつよう、学術研究活動賞、短期留学、課外活動、表彰祭、東医体などについて学生の記事を掲載しています。
のほな同窓会ホームページには、第1号から現在までののほな同窓会報がPDFで掲載されています。第1号(1959年3月発行)には、森田秀一教授(解剖学)、河合直次教授(第一外科)の退官に際して、医学部ではじめての試みとして最終講義が行われたことや、私が所属していた肺病研究施設を設置す

ることが決定したことが記載されています。また、第15回日本医学会総会で、14の主題(シンポジウム)において千葉大学医学部の各教授が新たな知見を発表し、「千葉学派、大いに気を吐く」と紹介されています。女子学生の合格率の上昇(定員85名に対して、前年度女子学生が4名だったのに対して、昭和34年度は10名)も記事になっています。現在の記事も、50年後、100年後の同窓生が千葉大学医学部の歴史を知る上で貴重な資料となることを期待します。
編集委員会では、会報のあり方を検討し、会員の皆様への同窓会の情報源となるように努力をしています。会員の皆様から新たな記事、企画などについてのご要望がありましたら、ご連絡をいただければ幸いです。
今年もよろしくご鞭撻、ご指導をお願いいたします。
廣島健三(昭54)

千葉医学94巻5号 2018年10月

症 例

腹腔鏡下手術で診断し得た von Recklinghausen 病に合併した小腸多発 GIST の 1 例

齋藤 徹 野澤聡志 永井啓之 横山元昭
宮原洋司 園田至人 郷地英二

学 会

第1359回千葉医学会例会・第38回歯科口腔外科例会
第1375回千葉医学会例会・第35回千葉精神科集談会

研究報告書

平成29年度猪之鼻奨学会研究補助金による研究報告書

編集後記

白澤 浩

Chiba Medical Journal

Original Article

Cued and contextual fear memories are erased by a long passage of time after fear conditioning

Daisuke Ishii, Daisuke Matsuzawa, Shingo Matsuda
Haruna Tomizawa-Shinohara, Chihiro Sutoh
Yutaka Kohno and Eiji Shimizu

Case Report

Near infrared spectroscopic assessment of the cerebral hemodynamic pathophysiology in pediatric diabetic ketoacidosis

Naoki Shimizu, Shinjiro Horikawa, Osamu Saito and Yukihiro Hasegawa

千葉医学94巻6号 2018年12月

症 例

Transabdominal preperitoneal approach 法による鼠径ヘルニア修復術後に大量腹腔内出血を来した 1 例

佐藤 豊 清家裕 亀高尚 牧野裕庸 深田忠臣
秋山貴洋 岡田菜実 宮原洋司

海外だより

ザルツブルク留学記

佐藤祐介

学 会

第1376回千葉医学会例会・第38回千葉泌尿器科同門会学術集会
第1378回千葉医学会例会・総合安全衛生管理機構研究発表プログラム(第6回桜美会)

CMJ 要旨

牽引手術台を用いた仰臥位前方法による人工股関節全置換術が有効であったシャルコー関節の 1 例

寺川寛朗 中村順一 菅野真彦 萩原茂生 輪湖 靖
三浦道明 瓦井裕也 縄田健斗 吉野謙輔
折田純久 大鳥精司 大塚将之

編集後記

Chiba Medical Journal

Case Report

Favorable outcome of a tractional direct anterior approach to total hip arthroplasty in a patient with Charcot arthropathy: case report

Hiroakira Terakawa, Junichi Nakamura, Masahiko Sugano
Shigeo Hagiwara, Yasushi Wako, Michiaki Miura
Yuya Kawarai, Kento Nawata, Kensuke Yoshino
Sumihisa Orita and Seiji Ohtori

Near infrared spectroscopic assessment of cerebral blood flow after bidirectional superior cavopulmonary anastomosis

Naoki Shimizu, Osamu Saito and Nao Nishimura

Human parechovirus infection mimicking septic shock and requiring critical care

Naoki Shimizu, Eri Mineo, Tadashi Kodani and Osamu Saito

第11回(2019年度)千葉医学会賞および奨励賞候補者の公募について
第12回 ちば Basic & Clinical Research Conference 開催のお知らせ
94巻総目次・索引